ハ必ス其請願事件ヲ會議ニ付セサルヘカラス議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタル片ハ意見書ヲ付シテ其請願書ヲ政府ニ送付シ尚ホ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得然レ𪜈請願書ハ哀願ノ體式ヲ用フヘシ若シ請願ノ名義ニ依ラス又ハ其體式ニ違フモノ若クハ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヒ又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用フルモノハ即チ是レ規程ニ適合セサルモノニシテ採用スルヲ得サルナリ又憲法ヲ變更シ司法裁判及ヒ行政裁判ニ干預スル請願ハ之ヲ爲スコトヲ許サストス

又各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預スルコトヲ得ストス

又各議院ノ請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其要領ヲ錄シ每週一回議員ニ報告ス

憲法實施後ハ從前建白ノ名義ヲ以テ元老院ニ呈出シタルモノハ之ヲ請願ト爲シ各議院ニ呈出スヘク又請願規則ニ依テ請願セントスルモノハ尚ホ從前ノ如ク行政官ニ請願書ヲ呈出スルモ妨ナカルヘシ但憲法議院法ニハ請願ノ性質ヲ示サヽレハ如何ナル請願ニテモ之ヲ議院ニ爲スコトヲ得ヘキナリ

第參日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ(憲法第二十三條)

第肆日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及ヒ移轉ノ自由ヲ有ス(憲法第二十二條)

此第參第肆ノモノハ佛國憲法ニ所謂ルりべるてゝあんおうゝ

○臣民權利義務

ちゅうる即チ各人ノ自由ナルモノニシテ何人モ皆各自其身體ノ自由ヲ有スルカ故ニ行住坐臥等總テ他ノ爲メニ拘束セラルヽコトナキハ當然ナリ之ヲ各人自由ノ原則トイフ然ルニ從前ハ他人ノ爲メニ束縛セラレテ身體ノ自由ヲ得サリシナリ昔時封建ノ世ニ在テハ一封内人民ノ他封内ニ移住スルヲ許サヽルハ勿論各處ニ關門(關門ハ古昔王政ノ時已ニ是レアリ)ヲ設ケテ行旅ハ旅行鑑札ヲ携帶スルニアラサレハ通行スルヲ許サス就中婦女ノ關門ヲ通過スルニ當テハ特ニ其取調ヲ嚴ニセリ是レ德川氏カ諸大名ノ家族ヲ江戸ノ邸ニ集メ隱然以テ質ト爲セシカ故ナリトイフ明治二年正月二十日ノ布告ヲ以テ始メテ箱根其他諸道ノ關門ヲ廢止セラレタリ然レトモ行旅寄留ノ者ハ尚ホ必ス其鑑札ヲ携帶セサルヘカラサルコトナリシモ明治四年七月二十二日ノ達ヲ以テ寄留旅行鑑札ヲ廢シ尚ホ明治五年六月十五日第百八十號布告ヲ以テ明治四年七月寄留旅行鑑札ヲ廢セシモ尚ホ鑑札ヲ要スル宿驛アルニ由リ更ニ無印鑑ニテ旅行苦シカラサル旨ヲ布告セラレタリ茲ニ於テ始メテ全國通行ノ自由ヲ得ルニ至リタリ又海外ニ航行スルコトモ維新前ハ嚴禁ニシテ決シテ私ニ航行スルヲ許サス吉田寅次郎佐久間修理等ノ嚴刑ニ處セラレタルコトハ今尚ホ世人ノ記憶スル所ナリ加之維新後ニ至テモ證明書ナキ者ハ外國ニ航行スルヲ許サストセリ即チ明治元年六月ノ布告ヲ以テ外國船ニ乘込ム者ハ必ス其地府縣ノ證書ヲ受ケシメ若シ其證書ナキ者ハ着港ノ地ニ上陸スルヲ許サスト

セリ然レトモ明治十一年五月四日第十五號達ヲ以テ海外旅行免狀ヲ廢シ爾後ハ同年二月二十日外務省第一號布達ニ依ルノミ此布達ニ定ムル海外旅券規則ハ全ク日本國民タルヲ證明シテ外國ノ保護ヲ受ケシメンカ爲メノモノニシテ決シテ航行ノ自由ヲ束縛スルモノニアラス故ニ今日ニ在テハ內外共ニ通行ノ自由ヲ有ス

又移居ノ權ニ付テモ昔日之ヲ許サヽリシノミナラス明治元年布告高札第五札ニ於テモ士民何レモ本國ヲ脫シテ他邦ニ移住スルヲ禁シタリ然レトモ今日ハ戶籍法ニ依ルノミニシテ自由ニ轉籍移居スルコトヲ得

又明治十五年以前ハ治罪法ナルモノナク隨テ擧動犯人ト思料スヘキ者アルトキハ逮捕官ハ何時ニテモ逮捕スルヲ得ヘク又政府ハ固トヨリ何時ニテモ被疑人ノ逮捕ヲ命スルヲ得テ而シテ其之ヲ命スルニ付テモ法律ナキカ故ニ政府ハ一定ノ手續ニ由ラスシテ臨時隨意ニ之ヲ命スルヲ得タリ故ニ法律上ヨリ論スレハ各人ノ自由ハ全ク保護セラレサリシナリ加之當時ハ自由トイヘル言詞ハ偶々詩人等ノ用ヒシコトハアレトモ人ノ權利ニ關シテ曾テ此言詞ヲ口ニシタル者ハ我國ノミナラス支那ニ於テモ是レナカルヘシ今日人ノ稱道スル自由ノ言詞ハ全ク佛語りべるてノ飜譯ニシテ東洋人ハ古來權利トシテ自由ナルモノヽアリシコトハ曾テ之ヲ知ラサリシナリ余思フニ世人カ自由ノ權利アルコトヲ知リテ之ヲ主張セサリシハ甚シキ不自由ノコトナカリシカ故ナルヘシ其甚シキ不自由ノコトナカリシ

ハ人民ノ卑屈ナルカ爲メトイハンカ將タ西洋ノ如キ暴甚汚吏ノナカリシカ爲メトイハンカ我國ニ於テモ身ヲ犧牲ニ供シ死ヲ以テ事ニ當リタル人ニ乏シカラス又理ヲ談シ道ヲ論スルノ人ナキニアラス然ルニ今日ニ至ルマテ曾テ自由ノ理ヲ談シ自由ノ道ヲ論スル者ナカリシハ自由ヲ談論スルノ必要ヲ感セサリシカ故ナルヘシ而シテ其必要ヲ感セサリシハ二個ノ事由ニ基キシナルヘシ一ハ暴君汚吏ノ天下ニ對シテ極惡大姦ヲ行ヒシ者ナク一ハ孔孟ノ仁義忠孝ノ敎ヲ奉シタルコト是レナリ果シテ然ランニハ自由ノ言詞ナカリシハ國家ノ爲メニ賀スヘク他邦ニ對シテハ誇ルニ足ルヘキ一事ナリトコソイフヘケレ決シテ此言詞ノ早クヨリ世間ニ用ヒラレサリシヲ憾ムヘキコトカハ佛國ニテモ千七百八十九年ノ革命ノ原因ハ暴君汚吏ノ甚シキ不法不正ノ處置ニ壓制セラレタルニ在リ此壓制ノ爲メニ甚シキ不自由ヲ感シタルヲ以テ茲ニ自由ヲ主張スルニ至リタルナリ誰カ不自由ナラサルニ特ニ自由ヲ主張スル者アランヤ故ニ余ハ今後モ自由ナル言詞ハ自然消滅シテ人ノ之ヲ唱フル者ナキニ至ランコトヲ希望スルナリ昔日ハ詩人ニハ自由ノ語ヲ用ヒタル者アリ杜甫ノ詩ニ云ク此時對雪遙相憶。送客逢春可自由又柳完元ノ詩ニ云ク春風無限瀟湘意。欲採蘋花不自由ト此二詩ハ佩文韻府ニ見エタリ然レ𪜈文章ニハ未タ此語ヲ用ヒタルヲ見ス

前述ノ如クニシテ治罪法ノ如キ規則ヲ以テ人ノ自由ヲ保護セシコトハ是レナカリシト雖モ新律綱領ニハ故禁無罪

人ノ條目アリテ私讐ヲ懷挾シ故意ニ無罪人ヲ禁獄シ又ハ拷訊スル者ハ徒一年ニ處シタルヲ以テ自由ノ一分ハ此法律ニ依テ保護セラレタリ然レ𪜈行法權ト司法權トノ區別立タスシテ而シテ司法權ヲ行フ所以ノ手續モ一定セサリシカ故ニ十分ニ自由ノ保護セラレサリシハ當然ノコトナリ尙ホ幕府ノ當時ニ付テイヘハ生殺與奪ノ權利ハ幕府カ之ヲ有シタルノミナラス家長モ亦生殺與奪ノ權ヲ有シタルカ如キ形狀ニシテ實ニ各人ノ自由ハ法律ノ保護ナキ者トイフモ可ナリシナリ一例ヲ擧ケンニ元文五年ノ極メニ緣談致置候娘ト不義致候男幷娘共ニ切殺候親ハ無構ト科條類典ニ見ユ又同書ニ足輕體候共町人百姓之身トシテ法外ノ雜言等不屆之仕形不得止事切殺候モノ無構トアリテ武士ハ勿論足輕ニテモ無禮ノ者ハ之ヲ切殺スコトヲ得タリ世ニ之ヲ切捨御免トイフ如此ク裁判權ヲ私ニ行フコトヲ許シタル程ナレハ其當時ハ實ニ自由ヲモ主張セサルヲ得サル情況ニシテ而シテ是等ハ自然幕府ノ自滅スルニ至リタル遠因トモ云フヘキモノナルヘシ然レ𪜈實際ハ如此ク容易ニ人ヲ殺スカ如キハ是レナカリシナルヘケレ𪜈亦實ニ自由ヲ束縛スルノ甚シキコトナキニシモアラサリシナルヘシ近來迄モ御用若クハ御上意ト稱シテ容易ニ人ヲ逮捕セシ時ニハ壓制ノ處置ナシトハイフヘカラサルナリ」明治十五年治罪法ノ頒布セラルヽニ及ヒ此ニ初メテ各人自由ノ原則ヲ公認セラレ而シテ實際ニ於テモ各人ノ自由ヲ保護セラルヽニ至リタリ卽チ現行犯及ヒ准現行犯ノ場

合ニアラサレハ豫審判事ノ令狀ナクシテ逮捕監禁スルコトヲ得ストシ尚ホ同時ニ刑法ニ於テ不法監禁ノ罪ヲ定メラレタレハ此二法ニ依テ各人ハ其自由ヲ保護セラルヽ實ニ西洋諸國ト異ナルコトナキニ至リタリ然レトモ明治十四年第四十六號布告アリテ其擧動犯人ト思料スヘキ者アルトキハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得ルコトヽセラレタレハ之カ爲メニ自由ノ幾分ハ束縛セラルヽコトナキニアラサレトモ這ハ是レ當分ノ内ノコトニシテ又管轄逮捕官吏ノ職務ヲ行フ時ニ限ルコトナレハ往昔ニ比スレハ霄壤モ啻ナラストイフヘキナリ

又明治二十年十二月二十六日第六十七號勅令保安條例アリテ一變則ヲ定メラレタリ即チ其第四條ニ云ク皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得ト是レナリ尚ホ該條例ニハ他ノ原則ニ對スル變則多ケレトモ今便宜此ニ其重要ナルモノヲ合記スヘシ即チ其第五條ニ云ク人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルヿヲ得○一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及ヒ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警

察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事○二新聞紙及ヒ其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事○三特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事○四旅人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事ト此第四ハ各人自由ノ原則ニ對スル變則ナリ

又其前ニ於テ明治五年十月二日第二百九十五號ノ布告アリ是レ有名ナル藝娼妓等解放ノ布告ニシテ即チ大ニ各人自由ヲ保護スル所以ノモノナリ其文ニ云ク

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買同樣ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ニ過クヘカラサル事

但相方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事

一平常ノ奉公人ハ一個年宛タルヘシ尤奉公取續候者ハ證文可相改事

一娼妓藝妓等年期奉公人一切解放可致右ニ付テハ貸借訴訟總テ不取上候事

次ニ同年同月九日第二十二號司法省布告アリ其末文ニ云ク

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養子ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲ爲サシムル者ハ其實際上則チ人身賣買ニ付從前今

○臣民權利義務

後可及嚴重ノ所置事

往昔ハ官ノ爲メニ自由ヲ束縛セラルヽノミナラス私ノ爲メニモ亦大ニ自由ヲ束縛セラレタルハ此布告ヲ觀テモ知ルヘキナリ今日ハ此布告ニ依テ大ニ自由ヲ保護セラルレヒ實際ハ其弊習尙已マス只此布告ニ依テ公裁ヲ仰キ以テ其自由ヲ保全スルヲ得ヘキノミ又此ニ注意スヘキモノアリ總テ人身ノ自由ハ私ノ契約ヲ以テ束縛スヘカラサルモノナルカ故ニ事ヲ爲スノ義務ノ如キハ義務者ニ於テ之ヲ盡サヽルトキハ償金ヲ要ムルノ外途ナキコト是レナリ近頃或ハ某ノ工場等ニ於テ工夫ヲ虐使スルカ如キ世評アリ工夫ハ以上ノ原則ニ依リ容易ニ其虐使ヲ免ルヽコトヲ得ヘシ然ルニ一利一害ハ常ニ免ルヘカラサル所ニシテ已ニ雇ヲ受ケ其賃銀ヲ受取リタル後ニ至リ自由論ヲ主張シテ雇ヲ解キ終ニ其賃銀ハ返還セサルカ如キ者モナキニ限ラサルヘシ藝娼妓等ノ者モ前ノ布告ヲ妄用シテ其主人ヲ欺ク者アリト聞ク實ニ一方ノ自由ハ他方ノ不自由ナリ自ラ人ヲ雇ヒ人ニ雇ハルヽ者ノ注意スヘキハ勿論在上ノ人モ亦注意スヘキ所ナリ而シテ之ヲ處理スルノ法律ニ至テハ最モ注意制定セサルヘカラサルモノナリ治國齊家ノ方法豈容易ニ論スルヲ得ンヤ

第伍日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス(憲法第二十八條)之ヲ信教ノ自由(佛語りべるて、るりじゅー)トイフ此信教ノ語ニハ自ラ二樣ノ別アリ一ハ內部ノ信教ニシテ一ハ外部ノ信教

ナリ内部ノ信教ハ人ノ志操ニ係ルモノナレハ其自由タルハ論ヲ俟タス所謂匹夫其志ヲ奪フヘカラサルモノナリ如何ナル法律ヲ以テスルモ内部信教ノ自由ハ決シテ之ヲ縛束スルヲ得ス故ニ異端邪説ヲ信スルモ亦其人ノ自由ニ在リ況ンヤ其異端タリ邪説タル所以モ亦能ク之ヲ別ツヘカラサルニ於テヲヤ且ツ佛語ニ依レハりべるて、るりじゆーハ宗教ノ自由ナレ𪜈我憲法ニハ信教トアリ必シモ宗門ノ教法ニ限ルニアラス佛教モ儒教モ教ナリ而シテ佛教ノ説ク所儒教ノ説ク所ノ如キハ極メテ廣シ且ツ佛教ノ如キモ宗教ヲ以テ視ルヘカラサルモノアリ故ニ之ヲ學術トイフモ亦可ナリ學術ハ人ノ自由ナルノミナラス反テ勸奬シテ勸メシムヘキモノナリ然レ𪜈其學術ニ係ルモノモ外部ニ顯ハルヽモノ即チ人ノ言語所爲ニ顯ハルヽモノニ付テハ制裁ナキ能ハス即チ出版條例集會條例等ハ其制裁ヲ定メタルモノナリ然レ𪜈此制裁タル信教ニ對スル制裁ニアラスシテ出版集會等ニ對スル制裁ナリ而シテ今日ニ在テハ直接ニ信教ニ對スル制裁アルヲ見ス只明治四年六月十九日布告ヲ以テ自今僧尼ト爲ラントスル者ハ地方官ヘ出願許可ヲ受ケシメ又明治十二年十月内務省乙第四十六號達ヲ以テ二十歳未滿ノ者ヲ教導職試補ト爲スニ付キ内務省ノ許可ヲ受ケシムル等ノ規則アルノミニシテ其他ハ總テ明治十七年八月十一日第十九號布達ニ依リ佛道各宗神道各派ノ管長ノ管理スル所タリ又臣民タルノ義務即チ兵役納税ノ義務ハ神官僧侶ト雖𪜈固トヨリ免ルヘカラサル所

ナリ而シテ明治五年第百三十三號布告明治六年第二十六號布告ヲ以テ僧尼ニ肉食妻帶蓄髮緣付歸俗ヲ許シタレハ法律上ハ常人ト異ナル所ナシ

切支丹宗門ハ古來嚴禁ニシテ慶應四年三月ノ高札中定第三札ニモ切支丹宗門是迄御禁制ノ通リ堅ク可相守邪宗門ハ堅ク相禁止スヘキ旨ヲ記載セリ此高札ハ明治六年二月第六十號布告ヲ以テ之ヲ除去シタリト雖ヒ之ヲ除去シタルハ一般熟知スル所ニシテ特ニ之ヲ揭示スルノ必要ナキカ故ニシテ決シテ禁止ヲ解キタルニアラス且ツ明治ニ至リテモ現ニ切支丹宗信仰ノ爲メニ處分ヲ受ケタル者長崎近傍浦上村人民ノ如キハ四千餘人ノ多キニ至リタリ然レヒ今日ノ耶蘇教卽チ昔日ノ切支丹宗ハ爾後次第ニ盛旺ニ趣キ又其宣教者受教者ノ品行德業等決シテ他宗ト伯仲アルヲ見サルノミナラス反テ或ハ優等ノ者アリ故ニ之ヲ實際ニ徵シテ禁止スヘキ道理アルヲ見ス況ンヤ之ヲ目シテ邪宗ナリ邪教ナリトイフコトヲ得ンヤ而シテ余ハ耶蘇教ヲ佛教ノ一派ナリト思考スルナリ政府カ教部省ヲ廢シテヨリ以來政教ハ全ク分離シ宗教ハ一ニ人民ノ歸依スル所ニ任シタレハ耶蘇教ハ爾後暗ニ解禁セラレタルモノナレハ他教ト同ク布教スルヲ得ヘク又實際モ已ニ盛ニ布教セリ今ハ明ニ憲法ニ信教ノ自由ヲ認メラレタレハ耶蘇教ハ勿論公安ヲ害セサル限リハ如何ナル教法モ之ヲ信仰スルコトヲ得ヘシ然レヒ神道佛道ヲ除クノ外ハ信教ノ自由ヲ認メラレタルニ過キスシテ其教法ヲ以テ國教ナリトセシ

ニアラス隨テ其教法ハ日本國君臣共ニ公認シタル所ニアラサレハ別ニ法律ノ保護スル限ニ在ラス故ニ刑法第二百六十三條第四百二十六條ノ宗教ニ關スル罪ハ他教ニ對シテハ成立スルコトナカルヘシ

第陸日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及ヒ結社ノ自由ヲ有ス(憲法第二十九條)茲ニ示ス所ハ佛國憲法ニ所謂るりべるて、ど、ら、ぷれっす(印行ノ自由)どろわ、だっそしあしよん(集社ノ權利)ニ當ルモノニシテ我憲法ハ殊ニ細密ナルモノヽ如シ言論ハ人ノ志操ヲ述フルモノニシテ素トヨリ自由タルヘク身體ノ自由ト相離ルヘカラサルモノナリ身體ニシテ自由ヲ得ハ言論モ亦自由ナルヘキハ論ヲ俟タス況ンヤ心志モ亦素ヨリ自由ニシテ已ニ信教ノ自由ヲ認メタルニ於テヲヤ之ヲ要スルニ身體卽チ身首手足五官及ヒ精神ハ皆自由ナラサルハナシ但法律ノ制限ヲ踰越スヘカラサルノミ

言論ニ付テハ刑法第百十七條第百十九條不敬ノ罪其第百四十一條官吏侮辱ノ罪其第三百五十八條誹毀ノ罪其第四百二十六條第十二罵詈嘲弄ノ罪等ニ係ルモノハ皆一人ノ言論ニ對スル制限ナリ新律綱領ノ時ニハ罵詈律アリシノミニシテ明治八年ニ至リ其六月二十八日第百十號布告ヲ以テ讒謗律ヲ定メラレタレトモ共ニ刑法ニ依テ消滅シ今日ニ在テハ刑法ノ外ニ言論ヲ制限スルモノナシ又明治維新前ニ於テモ別ニ言論ヲ制限シタル法律アルヲ見ス蓋シ昔日ハ言論ヲ制限スルノ必要ナキニ依リシコトナルヘシ維

○臣民權利義務

新前ハ言ニ訥ニシテ行ニ敏ナルヲ欲シ儒家ノ教法ニ於テ言ヲ愼マシメ言ハ行ヲ顧ミ行ハ言ヲ顧ミ以テ君子ハ惜々爾タルコトヲ務メタレ𪜈今日ハ之ニ反スルノ故ヲ以テ茲ニ言論ヲ制限セサルヲ得サルニ至リシナリ

著作ハ言論ヲ筆記シタルニ過キス口述スルモノハ言論ニシテ筆述スルモノハ著作ナリ其志操ヲ述フルニ至テハ一ナリ只之ヲ述フルノ方法ヲ異ニスルノミ而シテ言論著作ノ自由ハ信教ノ自由ト離ルヘカラサルモノナリ其言論シ其著作スル所ハ即チ教義ニ依テ執ル所ノ志操ヲ或ハ口ニ或ハ筆ニ之ヲ顯ハスニ外ナラス此著作ニ付テハ刑法不敬ノ罪侮辱ノ罪及ヒ誹毀ノ罪ノ外其制限ナカルヘシ

印行ノ自由ハ佛國憲法ニ所謂るてゝぢらゝぷれっすニシテ印行ニ圖書ト新聞トノ二種アリト雖モ共ニ或ハ見聞セシ所ヲ述ヘ或ハ思考スル所ヲ陳ヘテ之ヲ廣ク公衆ニ示シ永ク後世ニ傳フルニ至テハ一ナリ而シテ圖書ハ即チ著作ナリ其之ヲ傳ヘ之ヲ示スハ人ノ自由ニシテ他ノ束縛スヘキ所ニアラス然レ𪜈一ハ天下ノ公益ヲ害シ一ハ一人ノ私益ヲ害スルコトアルヲ以テ此ニ出版ノ自由ヲ拘束スル法律ナキヲ得サルニ至ル是レ出版條例新聞紙條例等ノ制定アル所以ナリ今其沿革ノ概畧ヲイハンニ出版條例ニ付テハ昔日ハ法律ノ見ルヘキモノナシ然レ𪜈幕府ノ時ニ在テ公安ヲ害シ政府ヲ害スル等ノ書ニシテ出版シタルモノハ絶版セシメ即チ其書籍ト版木トヲ沒入シ發賣スルヲ禁シタリトイフ明治ニ至テハ明治元年閏四月官許ヲ經スシ

テ刊行スル書類ハ賣買ヲ禁スルコトヲ布告シタリ之ヲ出版ニ關スル第一ノ布告トス次テ同年六月二十日布告ニテ書物ヲ開版セントスル者ハ草案ヲ學校官ニ出シテ許可ヲ受ケシムルコトヽ爲シ明治二年六月初メテ出版條例ナルモノヲ定メテ之ヲ布告セリ而シテ出版圖書ノコトハ文部省ニ於テ管轄シタリ明治八年九月三日第百三十五號布告出版條例ヲ以テ從前ノ出版條例ヲ廢シ更ニ新條例ヲ定メ而シテ出版ノコトハ內務省ノ管轄スル所ト爲リタリ思フニ文部省ノ管轄セシハ專ラ學術上ノ取締ノ爲メナルヘク內務省ノ管轄シタルハ專ラ行政警察ノ爲メナルヘクシテ前後大ニ其趣旨ヲ異ニスルコトナルヘキナリ而シテ今日現行スルモノハ明治二十年十二月二十八日勅令第七十六號出版條例ナリ

又新聞紙ハ幕府ノ時代ニハ全クナカリシニハアラサレトモ新聞紙ト稱セシモノハ絕ヘテナカリシナリ然レトモ新奇ノ事ヲ見聞セントスルハ人情ノ常ナルカ故ニ新奇ノ事アレハ出刷シテ街頭ニ行賣シタリ之ヲ讀賣トイフ夫ノ赤穗藩人カ吉良上野介ノ邸ニ侵入シテ亡主ノ讐ヲ報シタル件ノ如キモ其翌日ハ其始末ヲ印刷シテ江戶市街ニ賣リ回リシト聞ク而シテ近頃迄モ尙ホ全ク之ト一般ナルモノアリシハ吾人ノ躬ラ目擊シテ知ル所ナリ然レトモ新聞紙ト稱シテ發行スルニ至リシハ明治ノ初年頃ヨリノコトニシテ思フニ西洋ヨリ傳來シタルモノナルヘシ而シテ官許ヲ得サル新聞紙ノ刊行販賣ヲ禁シタルハ明治元年六月九日ノ布告

ナリ又明治六年四月第百三十一號達ヲ以テ在官ノ者官事及外務交際ノ妨碍ト爲ル事ヲ新聞紙ニ揭載スルヲ禁シ又同年十月第三百五十一號布告ヲ以テ新聞紙發行條目ヲ定メラレタリ之ヲ新聞紙條例ノ初ト爲ス次テ明治八年第百十一號布告ヲ以テ新聞紙條例ヲ頒布シテ新聞紙發行條目ヲ廢シタリ爾後數回ノ改正アリテ明治十六年四月十六日第十二號布告ヲ以テ更ニ新聞紙條例ヲ改正シ最後ニ明治二十年十二月二十五日勅令第七十四號ヲ以テ改正シ今日現行スル所ハ勅令第七十四號改正ノ新聞紙條例ナリ

出版即チ印行ハ其方法ノ何タルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ發賣シ又ハ頒布スルヲイフ但社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙證書ノ類ハ之ヲ除ク文書圖畫ヲ出版スル件ハ發行ノ日ヨリ到達日數ヲ除キ十日前ニ製本三部ヲ添ヘ內務省ニ屆出ツ出版屆ハ著作者發行者連印シテ之ヲ差出ス非賣品ハ著作者ノミニテ屆出ルモ妨ナシ又文書圖畫ノ發行者ハ其販賣ヲ營業トスル者ニ限ル但著作者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得又文書圖畫ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載ス

行政上ノ制裁トシテハ內務大臣ハ其發賣頒布ヲ禁止シ其刻版及印本ヲ差押フ裁判上ノ制裁トシテハ裁判所ニ於テ罰金禁錮幷ニ沒收ヲ言渡ス而シテ著作者印刷者ハ知情如何ニ拘ハラス法律上共犯ト爲シ又刑法ノ自首減輕再犯加

重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス又公訴ノ期滿免除ハ二年トス(明治二十年十二月二十八日勅令第七十六號出版條例)

新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京ハ警視廳)ヲ經由シテ內務省ニ屆出ツ其屆書ニハ一題號二記載ノ種類三發行ノ時期四發行所及ヒ印刷所五發行人編輯人及ヒ印刷人ノ氏名年齡ヲ記載ス而シテ題號記載ノ種類又ハ發行人ニ變更アルトキハ二週日以前ニ又發行ノ時期發行所印刷所編輯人印刷人ニ變更アルトキハ一週日以內ニ屆出テシム又發行人ニハ保證トシテ左ノ金額ヲ豫納セシム東京ニテハ千圓京都大阪橫濱神戶長崎ニテハ七百圓其他ノ地方ニテハ三百五十圓ヲ預納セシメ又一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額ヲ預納セシム

又新聞紙ハ發行每ニ內務省ニ二部管轄廳及ヒ管轄始審裁所檢事局ニ各一部ヲ納メシム

行政上ノ制裁トシテハ內務大臣ハ新聞紙ノ發行ヲ禁止シ又ハ停止ス又裁判上ノ制裁トシテハ裁判所ニ於テ禁錮罰金ヲ言渡シ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス公訴ノ期滿免除ハ六個月トス

雜誌ハ專ラ技藝ニ關シテ而シテ內務大臣ノ許可ヲ得テ出版條例ニ依ルモノヽ外ハ皆新聞紙條例ニ依ル

集會結社モ昔日ハ全ク自由ニシテ曾テ其制限アリシコトヲ見ス德川氏ノ時ニハ正德元年ノ定書ニ何事によらす誓約をなす徒黨を結へからさる事トアリテ今日ノ所謂ル結

社ヲ禁制シタルモノナリ又慶應四年三月ノ高札第二札ニモ何事によらすよろしからさる事に大勢申合候をとゝとゝとゝあへとゝとゝとうしてしいてねかひ事くわだつるをこうそといひあるひは居町居村をたちのき候をてうさんと申す堅く御法度たり若右類之儀これあらば早々其筋之役所へ申出へし御ほふび下さるへく事トアリテ是レ亦結社ヲ禁止シタルモノナリ然レトモ其集會ヲ禁止シタルモノヲ見ス所謂ル徒黨ト集會トハ區別アリ集會ハ一時衆人ノ會合スルモノニシテ佛語ノれもによんニ當リ親睦會演說會ノ類ナイフ徒黨ハ衆人ノ團結ニシテ一時ノモノニアラス佛語ノあっそしあしよんニ同クシテ結社ニ當ルモノナリ但徒黨ハ從前ノ慣例ニテ不善ノ團結ニ用フルノミ今ノ結社ハ善不善ヲ論セス企圖スル所アリテ永遠衆人ノ團結スルモノヲ總稱ス然レトモ其集會トイヒ結社トイフハ幾人以上ヲ指スヤ明ナラス二人會合團結スレハ卽チ集會ナリ結社ナリトイフヲ得ヘシト雖モ二人ハ勿論三人五人ト雖モ其會合團結ハ法律ノ制裁ヲ受クヘキモノニハアラサルヘシ佛國ニ於テハ二十一人以上ハ法律上ノ集會トシ其目的ノ何タルニ論ナク皆集會條例ノ規則ニ從ハシムルコトヽセリ我國ニ於テハ大ニ之ニ反セリ集會條例第一條ニ公衆トアリ此公衆ノ文字ニ注意セハ其集會ノ何タルヲ會得スヘキナリ之ヲ要スルニ佛國ニ比スレハ我國ハ大ニ集會ノ自由ヲ與ヘタルモノニシテ僅ニ政談ヲ目的トスルモノニ限リ集會條例ニ從ハシムルノミナリ

集會條例ハ明治十一年七月十二日第二十九號達ニ起因シタルモノニシテ此達ニハ政談ヲ目的トシ會社ヲ結ヒ或ハ演說會ヲ開クモノアル片ハ警察官ニ於テ視察シ國安ヲ妨害スルモノアリト認ムルニ於テハ禁止シテ內務省ニ具申スヘキコトヲ定メタリ又同年十二月九日警視局甲第六十四號布達アリテ政談講學ヲ目的トシテ演說會ヲ開クモノハ豫メ警視分局ヘ屆出ツヘキモノトシ猶ホ之カ手續ヲモ定メタリ此布達ニ依リ更ニ集會自由ノ幾分ヲ束縛シタリトイフヘシ何トナレハ政談ノ事ニ加フルニ講學ノ事ヲ以テシタレハナリ蓋シ講學トハ極メテ汎博ナル文字ニシテ法學ナリ農學ナリ又工學ナリ百般ノ事皆學術ノ目的タラサルモノナシ其道理ヲ研究スルハ即チ學術ナリトス故ニ如此ク廣ク集會ノ自由ヲ制限セラレタルモノトスル片ハ佛國ノ法律ト同一ナルカ如クナリト雖ヒ該布達ハ幾クナラスシテ廢止セラレタリ但シ同年十二月八日警視局甲第六十六號布達ヲ以テ警察官ハ其會場ニ臨監スルコトヽセラレタリ

之ニ次テ發布セラレタルモノハ即チ現行集會條例ニシテ明治十三年四月五日第十二號ノ布告ニ係ルモノタリ左ニ同條例ニ就テ我邦集會權利ノ如何ヲ示サン

上來說述シタルカ如ク佛國ト日本トハ其集會ノ權利ニ自ラ差異アリテ佛國ニ在リテハ公然開設スル集會ト私事ニ付テ開設スル集會トヲ區別シ私事ノ集會ハ別ニ之ヲ束縛スルコトナキモ公然ノ集會ニ至リテハ其目的ノ如何ナル

○臣民權利義務

ヲ問ハス總テ集會條例ノ支配ヲ受ケサルヲ得ス然ルニ我國ニ於テハ其公然ノ集會中ニ就キ特ニ政治ニ關スルモノニ限リテ集會條例ヲ適用スルナリ

集會條例第一條ニ依レハ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルカ爲メ公衆ヲ集ムルモノハ開會三日前ニ於テ其講談論議スヘキ事項及ヒ其講談論議スヘキ人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ屆出テ認可ヲ受ケサセシム

今之ヲ佛國ノ條例ニ比較スルトキハ佛國ニ於テハ二十一人未滿ノ集會ニ付テハ更ニ其規則ナク其二十一人以上ノ集會ニ限リテ特ニ其規則ヲ定メタリ然ルニ我國ニ於テハ只公衆ヲ集ムルモノ云々トアリテ果シテ其何人以上ヲ公衆ト爲スヘキヤ法文上明ナラサルノミナラス之ヲ實際ニ徵スルモ該條例ヲ適用スルニ付テ別ニ人員ノ多少ヲ論セサルニ似タリ然リト雖モ既ニ公衆トアリ且ツ衆ハ三人以上ノ謂ニシテ唐律明律等ニモ稱スル衆ト者三人以上トアリ而シテ衆ニ加フルニ公ノ字ヲ以テシ公衆トイフニ於テハ必ス多衆ナラサルヘカラス刑法第百三十六條ノ罪ト雖モ多衆ナラサレハ之ヲ構成スルコトナシ況ンヤ集會條例違反ノ罪ニ於テヲヤ且ツ其目的ハ公衆ヲ集ムルモノナラサルヘカラス然ラサレハ集會條例ノ制裁ヲ受クルコトナシ故ニ公衆ヲ集ムルノ目的ナクシテ偶然公衆ノ相會シタルモノニハ集會條例ヲ適用スルヲ得ス又已ニ其目的ニシテ公衆ヲ集ムルニ在ルトキハ其現場ニ會スル者ハ多衆ト稱スルヲ得

サルモ尙ホ集會條例ニ從ハサルヘカラス例ヘハ演劇若クハ寄席等ノ如ク其何人タルヲ問ハスシテ集會セシムルモノハ假令ヒ其人員ハ極メテ寡少ニシテ僅カニ両三名ニ及ハサルモ其目的既ニ公衆ヲ集ムルニ在ルカ故ニ該條例ノ支配ヲ受クヘキハ勿論假令ヒ其人員ニハ多少ノ制限アリ若クハ木戸錢席料等ヲ徵收スルヤト雖ヒ亦然リトス之ニ反シ其人ヲ指名シテ招待狀ヲ發シタル者若クハ初メヨリ結社シタル會員ノミニ限リテ集會スルモノナランニハ其人員ノ多少如何ヲ問ハス總テ此條例ノ適用ヲ受ケサルモノトス之ヲ要スルニ我邦ニ於テ集會條例ヲ適用スルト否トハ一ニ其趣旨ノ公衆ヲ集ムルニ在ルト否トヲ以テ區別スヘキナリ

同條例第二條ハ政治上ノ結社ニ適用スヘキノ條章ニシテ卽チ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス苟モ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルカ爲メニ結合セルモノニ適用スヘキナリ佛ノあっそしやしよんトれもにょんトノ區別ハ之ヲ集會ト結社トノ區別ニ適用スヘシ本條ノ結社ハ卽チ所謂るあっそしやしよんヲ指スモノニシテ一時ノ目的ヲ以テ集會スルニアラス永遠ノ目的ヲ以テ一團結ヲ爲スモノヲイフナリ凡ソ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルカ爲メ一ノ會社ヲ設ケタルトキハ其名義ノ如何ニ關セス總テ集會條例ニ依リテ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ屆出テ其認可ヲ受クヘク其社則ヲ改正シ及ヒ社員ニ出入アリタルトキモ亦然リ且ツ其屆出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ訊

問ヲ受クルコトアルトキハ社中ノ事ハ何事タリトモ總テ之ニ答辨セサルヘカラス又其結社ノ集會ニ關シテハ通常ノ集會ト同ク集會條例ニ從ハサルヘカラス即チ其結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ又必ス一般集會ト同一ノ手續ヲ爲サヽルヘカラス此場合ハれもによんニシテ卽チ一時ノ目的ヲ以テ集會セシ場合ヲイフナリ之ヲ要スルニ政談ヲ爲スノ目的ヲ以テ結社シタルトキハ條例第二條ニ依リ結社後ト雖トモ其集會ヲ爲ストキハ更ニ第一條ノ手續ヲ履マサルヘカラサルナリ但シ第二條ノ規則ハ政治上ノ目的ヲ以テ結社シ又其結社ニ於テ集會スルノ場合ニ適用スヘキモノニシテ彼ノ一時ノ目的ヲ以テスル所ノ集會ニ適用スヘキモノニハアラス

如此ク集會ト結社トニ付キ法律ニ精疎ノ別アルハ蓋シ一時ノ集會ハ後來ニ其効力ヲ存スルモノニアラサレトモ永遠ノ結社ハ其効力ノ永遠ニ繼續スヘキモノナルカ故ニ其利害ノ關スル所亦大ナルヲ以テナルヘシ

會社ニ於テ集會スルトキハ其講談論議スル事項人員會場及ヒ會日ノ定規アルモノハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ屆出テ認可ヲ受クルニ於テハ爾後ノ例會ハ一々之ヲ屆出ルニ及ハス

以上説述スル所ニ依レハ法律カ集會結社ノ權利ヲ束縛スルハ恰モ是レ所有權ノ制限ト等シク只一個ノ條件ヲ滿タサシムルニ過キスシテ强ヒテ之ヲ束縛スルモノニハアラサルナリ然リト雖トモ亦集會ノ權利ハ全ク束縛ヲ受クルコ

トナシトハイフヘカラスト而シテ此束縛タル一ニ行政上ノ處分ニ屬スルモノナリ尚ホ左ニ之ヲ示サン

管轄警察官ニ於テ以上ノ屆出ニ由リ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又認可シタル後ト雖モ之ヲ取消スコトヲ得ヘキナリ茲ニ至リテ集會ノ自由ハ初メテ一個ノ拘束ヲ受クルモノトイフヘシ而シテ我國ニ於テモ亦猶ホ佛國ニ於ケルカ如ク警察官ハ正服ヲ着シテ集會ニ臨ミ其認可證ヲ檢査シ會場ヲ監視ス且ツ警察官ノ臨席アルトキハ其求ムル所ノ場所ヲ供シ又其訊問アルトキハ必ス之ニ答辨セサルヘカラス而シテ佛國ニ在テハ集會ニハ必ス之ヲ取締ルヘキノ人アリト雖モ我國ニ於テハ別ニ其人ナク只其取締ヲ爲スハ警察官アルノミ

臨監ノ警察官ハ其認可證ヲ示サス又ハ其講談論議スル所屆出以外ノ事項ニ渉リ若クハ人ヲ罪辟ニ教唆誘導シ若クハ公安ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ會場ニ臨ムヘカラサル者ノ臨場シタル場合ニ於テハ之ヲ退場セシメ又時トシテハ其全會ヲ解散セシム此點ニ付テ其佛國ト異ル所ノモノヲ擧クレハ佛國ニ在テハ決シテ會場ニ臨ムヘカラサルノ人アルコトナク又特定ノ人ヲ退場セシムルコトナシ又別ニ尚ホ一個ノ制裁アリ卽チ行政處分ニ於テ其演說者ニ對シ禁止ヲ命スルコト是レナリ地方官ハ其情狀ニ依リ一年以內其管轄內ニ於テ公然政治ニ關スル講談論議ヲ爲スコトヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシム

又內務大臣ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シテ一年以

內全國內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルコトヲ禁止ス、
此等ノ會場ニ臨席スルコトヲ得サル人ヲ擧クレハ卽チ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ニシテ此種ノ人員ハ其集會ニ臨ミ其結社ニ加入スルコトヲ得サルナリ而シテ法律カ此種ノ人ニ限リ特ニ之ヲ禁止シタル所以ノ主旨ハ明瞭ナラサルモノアリト雖モ思フニ軍人ノ如キハ常ニ長官ノ命令ニ服從スヘキモノニシテ若シ或ハ之ニ違犯スルコトアラハ爲メニ軍紀ヲ紊シ護國ノ用ヲ爲サヽルヘシ然ルニ若シ政談演說等ヲ聽クトキハ漫ニ自由ヲ唱ヘ或ハ長官ノ命ニ從ハス或ハ軍紀ヲ守ラサルカ如キノ恐レアルニ依ルナルヘシ又警察官ヲ以テ此禁止中ニ列スルハ警察官ハ此等ノ集會結社等ヲ監視スヘキノ人ナルニ若シ之ヲ傍聽シ又ハ之ニ加入スル件ハ監視者ト社員トノ區別ナキニ至ルニ依ルナルヘシ其學校教員生徒等ノ如キニ至リテハ之ヲ禁スルノ趣旨ヲ見スヲ許スニ於テ更ニ障礙ナキカ如シ然レトモ此禁止アルハ是レ或ハ教員生徒等ハ一意學問ニノミ從事スヘキノ人ナルニ政談ヲ聽クトキハ徒ニ輕跳浮薄ニ陷リ其專心攻學ヲ害スルノ恐アリト看做シタルニ依ルナルヘシ又從前ハ官吏ハ政談演說ヲ爲スコトヲ得サルノ慣例ナリシト雖モ明治二十二年一月二十四日內閣訓令ニテ此慣例ヲ廢セラレタリ訓令ニ曰ク凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖トモ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ敍述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

○臣民權利義務

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ此限ニ在ラスト雖
又政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルカ爲メ其旨趣ヲ廣告
シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ノ加入ヲ慫慂シ又ハ
支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連絡通信スルコトヲ得ス是レ
漫ニ政談ヲ爲シ政治上ノ議論ヲ爲スコトヲ防止セントス
ルノ趣旨ニ出テシモノナルヘシ又公衆ヲ集メテ政談演說
ヲ爲スニハ必ス屋内ニ於テセサルヘカラス是レ亦公衆ノ
漫ニ政談ヲ聽クコトヲ防止スルノ趣旨ナルヘシ
右ノ外猶ホ裁判上ノ處分即チ制裁アリテ或ハ罰金ニ處シ
或ハ輕禁錮ニ處スルコトアリ即チ以上ノ規則ニ違犯シタ
ルコトノ輕重ニ依リテ其刑ヲ定メ裁判所ニ於テ之ヲ言渡
ス

又學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス多衆集會
スル場合ニ於テ警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリ
ト認ムルトキハ臨監スルコトヲ得ヘク若シ之ヲ肯セサルトキ
ハ罰金禁錮等裁判上ノ制裁ヲ受クヘキナリ且ツ學術會ト
雖モ若シ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルトキハ總テ政談
演說ト同一ノ手續ニ從ハサルヘカラサルモノトス
第柒日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナ
クシテ住所ニ侵入セラレ及捜索セラルヽコトナシ(憲法第
二十五條)之ヲ家宅不侵(佛語あんうぃらびりてぃどみっしー
る)トイフ是レ亦各人ノ自由ヨリ生スル結果ニシテ已ニ人
ノ身體精神等ノ自由ヲ保護スルニ於テハ家宅ニ侵入スヘ
カラサルハ論ヲ俟タス而シテ捜索ハ侵入中ノ一事ニ過キ

ス侵入スルヲ許サヽル以上ハ搜索ノ爲スヘカラサルヤ明ナリ而シテ法律ハ晝間ヨリモ特ニ夜間ハ家宅ヲ侵サヽラシメンコトヲ欲シタリ侵入ニモ種々アリト雖ヒ晝夜ヲ以テ大體ノ差別ヲ爲シタルハ當然ノコトナリトス卽チ夜中ノ侵入ハ人ノ棲息ヲ害シテ其害タル晝間ヨリモ大ナレハナリ刑法第百七十一條第百七十二條ニ人ノ住所ヲ侵ス罪アリ而シテ晝夜ニ付テ罪ニ輕重ノ別アルハ是レ其害ノ大小ニ由ルナリ又公力者タル警察官モ治罪法第百三十三條ノ規則アルヲ以テ日出前日沒後ハ家宅搜索ヲ爲スコトヲ得ス故ニ晝間ニアラサレハ侵入シ搜索スルコトヲ得サルナリ但シ明治十四年第四十六號布告ニ其變則アリ其文ニ曰ク治罪法第百三十三條第三項ニ家宅搜査ノ制限有之候得共芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日沒後ト雖ヒ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日沒後ニ拘ハラス搜査致シ苦シカラスト故ニ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日沒後ニ拘ハラス其營業中ナレハ侵入シ搜索スルヲ得然レヒ已ニ閉店シタル以上ハ他人民ト同ク家宅不侵ノ原則ニ依テ保護セラル又旅籠屋貸座敷ハ終夜營業スルモノナレハ要スルニ是レ亦營業ヲ爲ス時間ニ外ナラサルナリ

又古物商取締條例アリ明治十六年十二月二十八日第五十號ヲ以テ布告セラル該條例ニ依レハ警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査

スルコトヲ得タ古物商ハ之ヲ拒ムヲ得サルナリ

又明治十七年三月二十五日第九號布告質屋取締條例アリ此條例ニ依ルモ亦同ク警察官ハ何時ニテモ店舗ニ臨ミ質物及ヒ帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトヲ得テ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ

又明治八年三月七日第二十九號達行政警察規則アリ此規則ニハ芝居其他群衆ノ所ニ出張シ亂雜ヲ防制スヘシトアリ是レ一變則タルヘシ

刑事ノ裁判執行ニハ明治十四年九月二十日太政官第八十二號達ニ依リ巡査兵員ヲ使用シテ其執行ヲ爲サシム其達ニ曰ク司法官吏ヨリ巡査及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ

第一條　裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察官又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得

如此ク刑事ニハ其規則アルヲ以テ公力ヲ使用シテ執行スルヲ得レトモ民事ニハ其規則ナシ然レトモ此規則ハ公力ヲ使用スルノ手續ニ係レハ民事ニモ亦之ヲ引用スルコトヲ得ヘク而シテ裁判ニ執行力アルコトハ論ヲ俟タサル所ナレ

○臣民權利義務

ハ民事刑事ニ論ナク其執行ノ爲メニハ家宅ニ侵入シ搜査スルコトヲ得ヘキナリ

第捌日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルヽコトナシ(憲法二十六條)信書不侵ハ信教ノ自由言論ノ自由各人ノ自由等ニ關シテ關クヘカラサル要件ナリ信書ノ祕密ニシテ妄ニ之ヲ侵サレンニハ畢竟信教言論等ノ自由モ亦自由ナラサルニ至ル且ツ財産營業等ヲ保護スル等ノ趣旨ヨリ視ルモ信書ノ祕密ヲ侵スニ於テハ大ニ臣民ノ私益ヲ害スルモノアリ故ニ刑法第百六十三條ニ通信ヲ妨害スルノ罪ヲ定メ又郵便條例(明治十五年十二月十六日第五十九號布告)第二百三十四條ニ已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサル者ニ交付シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ郵便事務ヲ執ル者ハ總テ本刑ニ一等ヲ加フルコトヲ定メ尙ホ其第二百三十六條ニ於テ疎虞懈怠ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者モ亦之ヲ罰スルコトヲ定メ又電信條例(明治十八年五月七日第八號布告)第六十三條ニモ郵便條例第二百三十四條ト同一ノ罰則ヲ定メ其第六十八條ニ於テ電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ其第七十一條ニ於テ疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シタル者モ亦之ヲ罰スルコトヲ定メタリ此等ハ皆信書ノ祕

密ヲ侵スコトナカラシメンノ爲メノ罰則ナリ

如此ク信書不侵ヲ原則トスレ𪜈公益ノ爲メニハ私益ヲ害セサルヲ得サル場合アリ之ヲ變則トス電信條例第四條ニ曰ク電信局長ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシト又郵便條例第百二十三條第百二十四條ニ配達スル能ハス又還付スル能ハサル郵便物ハ沒入シテ驛遞總官ハ其沒書ヲ開封シ更ニ配達又ハ還付ヲ試マシムルノ規則アリ又治罪法第百六十九條ニ曰ク豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ是等ノ者ニ對シ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スルヿヲ得ト又戒嚴令第十四條ニ由リ戒嚴地境內ニ於テ司令官ハ郵便電報ヲ開緘スルノ權アリ是等ハ皆法律ニ定メタル特別ノ場合ニシテ變則ニ係ルモノナリ

第玖日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルヽコトナシ但シ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル(憲法第二十七條)之ヲ所有權不侵ノ原則トイフ所有權ハ佛語ニ之ヲぷろぷりエてトイヒ佛國憲法ニモ單ニ所有權ノ侵スヘカラサルコトヲ示シ我憲法モ亦如此クナリ財產ハ人ノ生命ヲ保ツ所以ノモノニシテ其侵スヘカラサルハ勿論ナレ𪜈特ニ財產中ニ就テ其一タル所有權ノミヲ侵スヘカラストセシハ其意ヲ得サルモノヽ如シ然レ𪜈所有權ハ財產中最大最要ノモノニシテ而シテ古昔政府カ侵シタルモノハ多ク

ハ所有權ニ在ルカ故ナルヘシ歐洲諸國ノ例ヲ按スルニ特ニ憲法中ニ明示シタルモノハ皆昔日政府カ侵害セシモノニシテ一人民ト一人民トノ間ニ於ケル侵不侵ハ憲法ノ明示スルヲ要セサル所ナレハ特ニ所有權ノミヲ掲載シタルハ一ニ此舊弊ヲ矯正スルノ趣旨ニ出ルカ故ナルヘシ所有權ヲ特書シタルヲ以テ他ノ財産ハ侵害スルモ妨ナシトハイフヘカラス使用收益ノ權利及ヒ債主ノ權利モ亦同ク侵害スヘカラサルヤ勿論ナリ故ニ其法文ノ全キヲ求ムレハ左ノ如クスヘキナリ曰ク日本臣民ハ其財産ヲ侵サルヽコトナシト

我國從前ハ所有權保護ニ關スル法律ハ曾テ之ヲ見サリシノミナラス普天ノ下ハ王土ニアラサルハナク政權ノ朝廷ニ在リシトキハ全國皆王土ニシテ武家政治ノ時ニハ多クハ覇府又ハ國主又ハ領主ノ所有スル所トナリ人民ハ恰モ小作人ト一般ニシテ完全所有權ヲ有セス僅ニ使用收益スルヲ得ルニ過キス處置ノ權ハ之ヲ行フヲ得サリシナリ故ニ明治ノ世ニ至リテモ猶ホ政府ニ於テ人民ノ土地ヲ取上ケタルコトハ吾人ノ實際ニ目擊セシ所ナリ是レ其當時ニ在テハ或ハ勢ノ止ムヲ得サルニ出テシコトナルヘシト雖モ豈穩當ノコトナリトイフヲ得ンヤ

此ニ明治四年十二月二十七日ニ至テ一個ノ法律ヲ發布セラレタリ是レ所有權保護ニ關スル古來未曾有ノモノナリ以前ハ人民ニ所有權ナク隨テ政府ハ隨意ニ之ヲ收奪セリ然ルニ此布告ヲ以テ人民ニ所有權アルコトヲ公認セラレ

政府モ妄ニ收奪スルヲ得サルニ至リタリ又明治盛典ノ一トイフヘキナリ該布告ニ曰ク

東京府下武家地町地ノ稱ヲ廢シ一般地券ヲ發行シ地租ヲ徵ス

町地ト稱セシモノニ所有權ナキハ勿論武家地ト稱スルモノニテモ幕府ハ隨意ニ取上クルコトヲ得タリ然ルニ此布告ニ依テ一般地券ヲ發行シ其所持人ノ所有地タルコトヲ公認セラレタリ而シテ地租ナルモノモ茲ニ生スルニ至リタリ從前ノ所謂ル年貢ナルモノハ小作人ノ納ムル小作料ト一般ニシテ今日ノ所謂ル地租トハ異レリ今日ハ自己ノ所有地ニシテ其保護ヲ享クルカ爲メ地租ヲ納ムルナリ次テ明治五年正月大藏省ノ布達アリテ地券中受地租納方ノ規則ヲ定メラレタリ此布告布達ニ依テ其大體完備スルヲ得タリ尙ホ又同年二月十五日第五十號布告ヲ發セラレタリ此布告ニ依ルモ從前ハ決シテ地所ハ各人民ノ地所ニアラスシテ幕府ナリ領主ナリ又ハ朝廷ナリノ所有タリシヲ知ルヘシ已ニ先ノ布告布達ヲ以テ各人民ノ所有地ト定メラレタルカ故ニ今又此布告ヲ發スルニ至リシナリ該布告ニ曰ク

地所永代賣買ノ儀從來制禁之處自今四民共ニ賣買所持致候儀差許候事

從前ハ人民ニ在テハ賣買ヲ爲スヲ得ス是レ所有權ナキカ故ナリ然レトモ其實ハ自己ノ耕作スル田地ヲ他人ニ賣渡スコトアリ又實ニ之ヲ賣買セサルヲ得サルハ勢ノ當然ナリ

此場合ニ於テハ質流ト稱シテ之ヲ他人ニ移轉セシメタリ假令ヒ所有權ナキコトヽスルモ如此キハ理論ニハ更ニ適合セサルコトナリ已ニ賣買スヘカラサルモノ豈之ヲ質入コスルヲ得ンヤ是レ理論ニ於テ解スヘカラサル所ナリ此理論ハ姑ク置キ從前ハ禁賣買ノモノナリシニ今此布告ヲ以テ四民共ニ賣買シテ所有權ヲ移轉スルノ自由ヲ得ルニ至リタルナリ然ルニ此布告文ノミニ付テ見ルトキハ僅ニ賣買ノミヲ許シタルニ似タレトモ其他ノ方法ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコトモ亦隨テ之ヲ許シタルハ蓋シ言ヲ待タサルヘキナリ賣買トアルハ多キ場合ヲ擧ケタルニ過キサルヘシ又同年二月二十四日大藏省第二十五號達ニテ地所賣買讓渡ニ付キ地券渡方ノ規則ヲ定メ同年十月晦日第百五十九號大藏省達ヲ以テ之レヲ改正セリ是レ現行法律ニシテ今日ハ卽チ之ニ據ラサルヘカラス故ニ第五十號ノ達ニ賣買トノミアレトモ決テ賣買ノミナラサルハ之ニ徵シテモ知ルヘキナリ此細則ニ賣買讓渡トアリ而シテ讓渡トハ賣買以外ノ移轉方法卽チ贈與遺屬交換等ヲ總稱スルモノナレハナリ之ヲ要スルニ所有權移轉ハ明治五年二月十五日第五十號ノ布告ニテ之ヲ許シ其細則ハ同年大藏省第二十五號及ヒ第百五十九號達ニテ定メラレタルナリ

以上ニテ完全所有權ヲ各人民ノ有スルコトハ明了ナリ然レトモ亦例外ノ規則アリ公用土地買上規則是レナリ明治八年七月二十八日第百三十二號達ヲ以テ其規則ヲ定メラレタリ其第一則ニ曰ク公用土地買上トハ國郡村市ノ保護便

益ニ供スル爲メ院省使廳府縣ニ於テ人民所有ノ土地ヲ買上クルヲイフト而シテ又地方經濟ニテ學校病院數地ノ爲メ買上クルヲ得ルコトヽセラレタリ佛國ニテハ之ヲ公用土地引上トイヘリ我國ニテハ公用土地買上トイフ其文字ヨリ見レハ引上ハ壓制ノ處置タルカ如キモ其實決シテ然ラス反テ其當ヲ得タルモノトイフヘシ且ツ佛國ニテハ其保護ノ方法モ亦十分ナリトイフヲ得ヘシ何トナレハ我國ニテハ單ニ其便益ノ爲メナルトキハ之レヲ買上クルヲ許セリト雖モ佛國ニ在テハ其便益ノ爲メノミニテハ決シテ之ヲ許サス卽チ必要缺クヘカラサルトキニアラサレハ引上ヲ爲スヲ許サス是レ我國ニ比シテ其保護ノ厚キ所以ナリ

院省使ニテ公用土地買上ヲ要スルトキハ地方官ニ諮詢シテ差支ナキ旨ノ回答ヲ得タルト上ニテ土地ヲ買上ル事由之ヲ必需スル事由等ヲ詳記シテ內閣ニ上申シ允裁ヲ得ルモノトス又廳府縣ニテ公用土地買上ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シテ內務省ニ稟請シ內務省ヨリ內閣ニ上陳シ允裁ヲ得ルモノトス如此ク何レモ內閣ノ允裁ヲ得サルヘカラスト雖モ之ヲ佛國ニ比スレハ亦大ニ異ナル所アリ

佛國ニ於テハ公用土地引上ニ付キ三個ノ條件アリ第一其公益ニ係ルコトハ法律ヲ以テ之ヲ定ム第二其引上ハ民事裁判所ニ於テ之ヲ言渡ス第三償金ハ諸土地所有者ヨリ組織シタル陪審ニ於テ之ヲ定ムルコト是レナリ但シ千八百五十二年十二月二十五日元老院決定書ヲ以テ爾後ハ其公益ニ係ルコトハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヽセリ然レ

我國ニ比スレハ殊ニ鄭重ナリ

以上ハ完然所有權ニ係ルコトナリ尙ホ鐵道ヲ敷設シ電信ヲ架設スル等ノ爲メ一時ヲ限リ又ハ一所ヲ限リテ土地ヲ使用スルコトアルヘシ民法草案ニハ地役ノ所ニ其規則アリ然レヒ現今ニ在テハ未タ其規則ヲ見ス

職業ハ人ノ依テ生計ヲ得依テ財産ヲ得ル所以ニシテ社會ノ大本モ依テ立ツ所以ノモノナリ然ルニ昔日ハ何レノ國ニ於テモ職業ヲ束縛シ一部ノ人民ヲ利シテ其他ヲ顧ミサルカ如キノ弊政アリシナリ故ニ佛國憲法ニハりべるてぃ、どらわゐゆ(職業ノ自由ト譯ス)ト稱シ特ニ人民營職ノ自由ヲ保護セリ我國ニ於テモ憲法中已ニ所有權ヲ保護スルノ明文アルニ於テハ職業ヲ保護スルノ明文モ亦是レアルヲ相當ナリトス況ンヤ昔日ハ我國ニ於テモ職業ノ自由ナカリシノ事實アルニ於テヲヤ今憲法中ニ其明文ナシト雖ヒ職業ノ自由タルヘキハ論ヲ俟タス

德川氏ノ時ニ於テハ農ニシテ商ヲ兼ヌルコトヲ許サスシテ農ハ農ノミノ事ヲ爲シ商ハ商ノミノ事ヲ行ヒ決シテ同時同一人ニシテ農業ト商業トヲ併セ爲スコトヲ許サヽリシナリ是レ實ニ至大ノ制限トイフヘシ加之其農業部內ニ於ケルモ田畑ニハ必ス穀類ヲ作リ假令ヒ其地味ニ適スルモ決シテ桑楮等ヲ植ユルコトヲ許サス此種ノモノハ山川荒蕪等開墾ノ地ハ格別ナレヒ田畑ニハ之ヲ植付クルコトヲ禁シタリ又其商業部內ニ於ケルモ朱座桝坐等ナルモノアリテ朱又ハ桝ヲ專賣シ金座銀座等アリテ金銀ノ專賣ヲ

○臣民權利義務

爲シタリ其他之カ類例ヲ求ムレハ一ニシテ足ラサルヘシト雖ヒ總テ株ナルモノアリテ之ヲ有セサレハ以テ其業ヲ營ムコトヲ得ス洗湯理髮床等ニ至ル迄皆其株アリシナリ故ニ當時ニ在テハ職業ノ自由ナカリシコト知ルヘキナリ此弊習ヲ廢シタルモノハ實ニ明治ノ新政ニ在リ明治四年九月大藏省達ヲ以テ田畑ニ米麥雜穀其他諸般ノ物ヲ自由ニ種植スルコトヲ許シ明治五年七月第百九十六號布告ヲ以テ香具師ノ名目ヲ廢シ人々自由ニ商賣ヲ爲スコトヲ許シ明治五年八月大藏省第百十八號達ニテ農ニシテ商ヲ兼ヌルノ禁ヲ解キシ等ハ皆是レ舊弊ヲ一洗シタルモノナリ然ルニ其當時ニ在テハ農ヲ止メテ商ト爲リ又商業者中ニ於テハ互ニ競爭シテ終ニ其業ヲ保全スル能ハサルヲ以テ舊制ノ如クナラサルヘカラスト主張シ今日モ尙ホ或ハ如此キ感想ヲ有スル人モアルヘケレヒ人身自由ノ原則ニ依テ論スルヒハ職業モ亦自由ナラサルヘカラサルナリ

然レヒ此原則ニモ其例外ナキニアラス卽チ明治十七年十二月二十七日第三十一號布告火藥取締規則ナルモノアリテ火藥劇藥ノ製造ハ一切政府ノ全權ニ歸シ人民ハ之ヲ製造スルコトヲ得ス其販賣ニ付テモ亦制限法アリテ管轄廳ニ願出テ免許鑑札ヲ得タル者ニアラサレハ販賣スルコトヲ許サス此規則ハ取締ノ主旨ニ出テ、危害ヲ防キ公安ヲ維持セントスルニ在リ郵便モ亦政府ノ特權ニ在リ郵便ヲ以テ政府ノ特權ニ歸シタルハ通常人ニ在テハ往々送達ノ確實ナラサルコトアリ故ニ此送達ヲ確實ニシ併セテ歲入

ヲ多カラシメンヲ爲メナリ又代言人醫師藥舗産婆等ニハ試驗及第ノ法アリテ其試驗ヲ受ケ及第シタル者ニアラサレハ其業ニ就クヲ許サス是レ其公益ニ關スルコトノ大ナルヲ以テ其人ヲ撰ムニ在ルナリ其他取締上職業自由ノ幾分ヲ制限スルモノアリテ就中古物商質屋取締條例石油取締規則ノ如キハ或ハ贓物ノ故買ヲ防キ或ハ失火等ナカラシメンカ爲メニスル行政警察取締ノ趣旨ニ出ツルモノナリ夫ノ賣藥規則藥用阿片製造販賣規則ノ如キモ亦之ト同シク要スルニ取締上ノ規則ナリトス

酒造煙草醬油菓子等ノ製造販賣ニ付テモ亦各其規則アリト雖ヒ這ハ其名稱ニ於テモ稅則ト名クルカ如ク全ク收稅主義ニ出テクルモノナレハ其手續ヲ履ミ營業稅ヲ拂フニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得テ決シテ自由ヲ束縛スルノ主義ニ出テタルニハアラス自ラ其差別アリ混スヘカラス

第拾日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

(憲法第二十條)兵ハ國ノ大事ニシテ死生ノ地タリ存亡ノ道タルモノニシテ凡ソ國民タル者ハ身ヲ以テ其大事ニ當ラサルヘカラス一國ノ存亡ハ卽チ一人ノ死生ノ關スル所ナリ國亡スレハ身死セサルヲ得ス故ニ何レノ國ニ於テモ古ヨリ國民タル者ハ皆其國兵ニシテ治ニ在テハ之ヲ民トイヒ亂ニ在テハ之ヲ兵トイフ兵民二アルニアラサルナリ我國ニ於テハ往昔ハ天皇親ラ元帥ト爲リ大臣大連其偏裨ト爲リ兵刑ノ官其職ヲ分タス兵農ノ人其業ヲ分タサリシナリ後世ニ至テ兵刑ノ官其職ヲ分チシト雖ヒ兵農ハ尙ホ其

人ヲ分タサリシナリ天慶ノ亂ニ及ヒ土豪ヲ募集シテ兵ト爲セシヨリ漸ク弓馬ノ家ト號スル者アリ源平氏ノ起ルニ及ヒテ始テ武門ノ稱アルニ至リ兵農終ニ全ク分レタリ其以後ハ只兵權ノ武門ニ歸シタルノミナラス國ノ大權ヲ擧ケテ武家ノ有ト爲ラシメタリ維新ニ至リ明治二年六月二十五日太政官達ヲ以テ諸藩ノ版籍奉還ヲ允可シ明治三年七月十日布告ヲ以テ始テ盛岡藩ヲ廢シ次キテ喜連川米澤等ニ及ヒ終ニ明治四年七月十四日布告ヲ以テ藩ヲ廢シテ縣ヲ置キタリト雖モ尙ホ兵農一ナルニ至ラサリシナリ明治五年十一月二十八日第三百七十九號布告ヲ以テ徵兵令ヲ定メラルヘキノ詔書及ヒ告諭書ヲ府縣ヘ下シ全國ニ告諭セシメラレ明治六年一月十日陸軍省達ヲ以テ徵兵令ヲ頒布セラルニ及ヒテ此ニ全ク兵農一タルノ古制ニ復セラレタリ爾後徵兵令ニハ改正アリト雖モ兵農一タルノ原則ハ反テ益々實行セラレタリ

今日ハ明治二十二年一月二十一日法律第一號徵兵令ノ定ムル所ニ依テ兵役ノ義務ヲ負フ此徵兵令ニ依ルニ日本臣民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アリ而シテ癈疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ハ兵役ヲ免シ又重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サストセリ

兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス是レ兵役ノ義務ニ對スル制裁ナリ

第拾壹日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス(憲法第二十一條)租稅ハ固ト政費ニ充ツルモノナレハ人民ノ負擔スヘキハ當然ナリ然ルニ往昔ハ何レノ國ニ於テモ國ハ卽チ君主ノ領スル所ニシテ民ハ卽チ其小作人タルカ如ク租稅ハ卽チ借地料ノ如キ形狀ナリシヲ以テ國君ノ租稅ヲ徵スルハ恰モ地主ノ借地料ヲ徵スルニ同シ故ニ租稅ヲ徵スルモ之ヲ免スルモ一ニ地主タル君主ノ意見ニ在リシナリ故ニ租稅ハ政費トイハンヨリモ君主ノ收益ナリトイフテ可ナリ其輕重宜ヲ得スシテ偏頗ノ處置アルハ寧ロ當然ノコトナリトイフヘキナリ

我國往昔ハ租稅ニ三種アリ卽チ田ニ租アリ身ニ庸アリ戶ニ調アリシナリ而シテ此租稅ハ崇神天皇ノ時ニ始マリシモノヽ如シ古事記ニ曰ク爾レ天下太平、人民富榮、於レ是ニ初テ令レ貢ニ男弓端之調、女手末之調ヲ、故稱シテ其御世ヲ謂フ所レ知ニ初國之御眞木天皇ト也、ト故ニ租稅ヲ徵スルコトハ崇神天皇ノ時ニ始マリシナルヘシト雖モ然レトモ既ニ一國ヲ建立セシ以上ハ必ス租稅ヲ徵セサルヲ得サリシナルヘク只歷史上之ヲ見サルノミ而シテ此弓端手末ノ調ハ今日ノ雜稅卽チ工業稅ニ相當スルモノタルコトハ自ラ其言詞ニ徵シテ明カニシテ又大寶令ニモ調ノ解アリ其解ニ由レハ其雜稅ニ相當スルコト益々明瞭ナリ卽チ其一二例ヲ擧ケンニ獵夫ハ其獵獲シタル禽獸ヲ出シ漁者ハ其漁取シタル魚鼈ヲ出シ婦女ハ其紡織シタル絲布ヲ出スノ類ヲ調トイフナリ思フニ此弓端手

末ノ調ノ如キハ何レノ國ニ於テモ租稅ノ初ナルヘキナリ」
大寶令ニ田租ノ制アリテ凡ソ田一段ニ稻二束二把ヲ出ス
コトヽセリ而シテ其當時一段ノ收入ハ稻五十束ニシテ一
束ノ稻ハ之ヲ調製シテ舂磨スレハ米五升ヲ得故ニ一段ノ
收入二石五斗ニ付キ租稅一斗一升ヲ納ム卽チ收入二十五
分ノ一强ニ當ルノ割合ナリ後慶雲三年ニ至リ一町ノ租ヲ
十五束ト定ム故ニ此租法ハ大署三十分ニシテ其一ヲ貢ス
ルモノナリ其後種々ノ沿革ヲ歷テ德川氏ニ至リ三代將軍
家光ノ世ニハ一段ニ付キ二石五斗ヨリ一石二斗ヲ納ムル
コトヽセリ現今ハ地價百分ノ二分五厘ヲ納メシム
又雜稅ハ大寶令ニモ調ノ名義ヲ以テ其規則ヲ定メタリ然
レトモ其細則ハ必要ナケレハ之ヲ署ス而シテ德川氏ノ時ニ
在ルモ其趣意ニ基キ種々ノ物品ヲ貢獻セシメタリ而シテ
雜稅モ大寶令ノ時ヨリシテ貴族ニハ之ヲ免除セリ故ニ皇
親八位以上ノ男及ヒ十六歲以下並ニ癈篤疾ノ者ハ調ヲ免
ストアリ又庸ナル者ハ卽チ力稅ニシテ人民ヲ使役スルノ
法ナリ德川氏ノ時及ヒ維新後ニ至ルモ尙ホ其法ヲ存シ諸
侯ノ東上スル際又ハ城寨砲臺宮殿等ヲ建造スル際ニハ人
夫トシテ人民ヲ使役セリ然レトモ今日ハ皆之ヲ廢止セラレ
タリ
明治六年七月二十八日第二百七十二號布告ヲ以テ地租改
正條例ヲ定メラレタリ其上諭ニ曰ク朕惟フニ租稅ハ國ノ
大事人民休戚ノ係ル所ナリ從前其法一ナラス寬苛輕重率
不其平ヲ得ス仍テ之ヲ改正セントヽ欲シ乃チ所司ノ群議ヲ

採リ地方官ノ衆論ヲ盡シ更ニ內閣諸臣ト辨論裁定シ之ヲ公平畫一ニ歸セシメ地租改正法ヲ頒布ス庶幾クハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン主者奉行セヨト故ニ古來ノ租稅ニハ蠲免ノ法アリテ水旱蟲霜不熟ノ際ハ實地調査ノ上減輕免除ヲ爲シタルモ地租改正條例以後ハ租稅ハ金納ニシテ必ス畫一ノ稅額ヲ徵シ豐熟ノ年ト雖モ增加セス凶作ノ時ト雖モ減免スルコトナシ

明治六年地租改正條例ニハ地價百分ノ三ヲ以テ稅額トセラレタルモ明治十年一月四日第一號布告ヲ以テ之ヲ地價百分ノ二分五厘ト改定セラレタリ其詔書ニ曰ク朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用實ニ貴ラレス而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍レミ萬ニ舊稅法ヲ改正シテ地價百分ノ三ト爲シ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ稅額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歲出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ贊クヘシト

如此ク稅法ヲ改正セラレタルハ是レ亦明治新政中ノ一大典ナリトス然レトモ今日ニ至ル迄ハ臣民ニ參政ノ權利ナク租稅ニ政費タルノ性質ヲ付與セス隨テ租稅ヲ議定スルコトヲ臣民ニ許サレサリシカ故ニ未タ詔諭ノ趣旨ヲ盡クスニ足ラサリシナリ佛國憲法ニハ租稅ヲ表決スルノ權利ヲ人民ニ與フルコトヲ明示セリ我國ニ於テハ之ヲ明示セスト雖モ憲法第六十二條ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシトアリテ而シテ法律ハ帝國議會

ノ協賛ヲ經テ成ルヲ以テ未タ全ク表決ノ權利ヲ有セスト雖モ自ラ表決ノ權利ヲ有スルニ至ルヘキナリ茲ニ至テ租稅ノ性質ハ卽チ政費ニシテ臣民カ其義務ヲ負擔スル所以ハ昭然トシテ明ナルコトヲ得聖旨モ亦漸ク貫徹スルニ至ルヘキナリ

然レ𪜈余思フニ爾後ハ稅率ヲ一定セシムヘキニアラスト雖モ實ニ政費ヲ要スルコト多クシテ其政費ノ必要缺クヘカラサルモノナランニハ地價百分ノ三ト爲シ五ト爲スノ可ナルノミナラス例ヘハ外患等ノ爲メニシテ帝國ノ存亡ニ關スルカ如キ場合ニ當テハ各臣民ノ家產ヲ擧ケテ皆之ヲ徵收スルモ亦妨ケス然レ𪜈若シ之ニ反シテ政費ヲ要スルコトナカランニハ百分ノ一モ亦徵收スヘキニアラス何ノ爲メニ無用ノ政費ヲ徵收スルコトヲ須ヒン又何ノ爲メニ府庫ノ財ヲシテ餘アラシムルコトヲ要センヤ政府ト人民ト二アルニアラス人民ノ富ムハ卽チ政府ノ富ムナリ而シテ政府ノ富ハ國ニ益ナク民ニ害アリ之ヲ要スルニ年々歲々必要ナリト認ムル豫算ニ依リ之ヲ各人民ニ賦課スヘシ故ニ稅率ハ一定スヘキモノニアラサルナリ而シテ其要ト不要トハ事實ノ問題ナレハ政府ト帝國議會トノ認定スル所ニ任スヘシ

已ニ租稅ハ臣民カ負擔スル所ノ義務ナルヲ以テ其制裁ナキコトヲ得ス其制裁ハ從前ハ明治十年十一月二十一日第七十九號布告ノ定ムル所ニ依リシナリ卽チ徵收期限(每期ヲ云)後三十日ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シ

タル財産ヲ公賣シテ徴收ス若シ其財産他人ヘ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受ケタル者ヨリ完納セシム但シ書入質入(地所質入ハ其規則ニ從フ)ノ財産ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨納スヘシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス又營業稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスモノトス其釀造稅ニ係ルモノモ亦同シ又府縣稅民費モ以上ノ例ニ準シテ處分ス但各別ニ財産ヲ指定メテ賦課セサル民費徴收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財産ニ付先取特權アリトス又凡租稅不納ニ付財産ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徴シ剩除アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス但該財産ニ付テ區戸長役所ノ帳簿ニ配載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付スルコトヽセリ

今日ハ明治二十二年三月十三日法律第九號ニテ國稅徴收法ヲ定メ市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徴收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務ヲ負擔シ而シテ納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セサル時ハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ處分スルコトヽセラレタリ故ニ今後別ニ制裁法即チ處分法ヲ定メラルヽ時ハ其法律ニ據リ然ラサル時ハ前ニ示シタル明治十年第七十九號布告ニ據テ處分スルノ外ナカルヘキナリ但法律第九號ニハ期滿免除ノ法アリ其期限ヲ三年トス脫稅ニ係ル時ハ其期限ハ公訴ノ期滿免除ノ期限ニ同シ

第拾貳日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルヽコトナシ(憲法第二十四條)司法權ヲ獨立セシメテ裁判ヲ行ハシムルモ臣民ヲシテ其裁判ヲ受クルヲ得サラシムルニ於テハ司法權ノ獨立モ有名無實ニシテ終ニ其効ヲ見サルヘキナリ往昔ハ司法權モ獨立セス又司法權ト行政權トノ分別モナカリシカ故ニ確然一定シタル管轄裁判官タル人ナク總テ政府カ指定スル所ノ裁判官ノ裁判ヲ受ケサルヲ得サリシナリ然レ𪜈今ハ即チ然ラス刑事ニ於テハ已ニ治罪法ノ定ムル所アリ民事ニ於テハ未タ訴訟法ナシト雖モ布告布達ヲ以テ裁判管轄ハ之ヲ定メラレタリ已ニ其管轄ヲ定メラレタル以上ハ臣民ハ其相當管轄裁判官ノ裁判ニアラサレハ決シテ受クヘキニアラス然レ𪜈是レ只政府カ行政權ヲ以テ裁判權ヲ侵スヿナキヲ明示シタルニ過キサレハ或ハ裁判所ニ於テ管轄ヲ誤リ裁判スルコトアリト雖モ上訴ノ原由ト爲スヲ得ルノミニシテ憲法ニ違反シタルモノナリトハイフヲ得サルモノトス

然ルニ皇室典範第五十條ニ依ルニ人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判スルコトヽセラレタルヲ以テ或ハ疑義ヲ生スル者アリ曰ク人民ハ勸解ヲ受ケ始審ノ裁判ヲ受ケ尚ホ控訴上告スルノ權アリ然ルニ皇族ニ對スル場合ニ於テハ法律ノ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルコトヲ得スシテ勸解ト控訴上告トノ權ヲ奪ハルヽニ至ル是レ憲法第七十四條第二項皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ストアルニ違犯シタルモ

ノニアラスヤト余思フニ皇室典範ハ官報ニ登載セラレサルモノナレハ之ヲ以テ臣民ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪フヘカラサルハ勿論ニシテ又臣民ニ在テハ皇室典範ノアルコトハ憲法ニ明示スル所ナレハ之ヲ知了スヘシト雖モ其皇室典範ノ如何ナルモノナルヤハ公然臣民ノ知リ得タル所ニアラス又之ヲ知ルモ臣民ニ對シテ其効ナキモノナレハ臣民ハ皇室典範ノ定ムル所ニ付テハ敢テ啄ヲ容ルヘキノ道理ナシ余思フニ皇室典範第五十條ハ皇族ニ對シテ示サレタルモノナレハ臣民ニ對シテハ必ス別ニ法律ヲ以テ之ヲ示サルヘキナリ憲法發布以來日尚ホ淺キ今日ニ在テハ論スヘキコトニアラサルナリ

以上十二個ノモノハ臣民カ國ニ依テ擔保セラレ又國ニ對シテ負擔スル權利義務ニシテ之ヲ要スルニ臣民ハ法律ノ爲メニハ權利モ有シ義務モ負フト雖モ他ノ爲メニハ利害共ニ之ヲ受クルコトナキヲイフナリ是レ實ニ憲法ノ憲法タル所以ニシテ而シテ憲法ノ要旨ハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル法律ヲ以テ權利義務ノ關係ヲ明ニスルニ在リ從來ハ法律ノ名アリト雖モ法律ノ實ナクシテ法律ハ卽チ政府ノ意思ヲ示シタルモノニ外ナラス故ニ政府ノ意思ヲ以テ法律ヲ制定シ變更シ又之ヲ廢止シ臣民ハ一ニ政府ノ意思ニ從フノミナリ爾後ハ然ラス法律ハ政府ト臣民トノ意思ニ依テ成ルモノニシテ恰モ甲乙間ノ約定ノ如シ故ニ之ヲ制定シ變更シ廢止スル等皆結約者雙方ノ意思ニ依ラサルヘカラス故ニ雙方ノ結約者タル政府ト臣民トハ各之ヲ遵守

スルノ義務アリ茲ニ於テカ始テ之ヲ眞ノ法律トイフヘキナリ實ニ憲法ハ未曾有ノ大典ニシテ余ハ維新ハ維新ノ時ニアラスシテ憲法發布ノ時卽チ明治二十二年二月十一日ニ在リトスルナリ憲法ノ發布ハ日本國第二ノ開闢第二ノ紀元トイフヘキモノナリ故ニ余ハ憲法發布ノ此年ヲ稱シテ明治第一年トスルナリ日本ニ三大事アリ何ヤ曰ク第一神武天皇ノ開元第二北條時宗元寇ヲ平ク第三明治憲法ノ發布是レナリ

憲法第十八條ヨリ第二十九條ニ至ル各條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ(憲法第三十一條)或曰ク此規則ハ何ノ爲メニ設ケラレタルモノナルヤ其精神ノ在ル所ヲ解スル能ハス卽チ第一天皇ノ大權ノ施行トハ何ヲイフヤ第二其施行ヲ妨クルコトナシトハ如何ナルコトナルヤ之ヲ解スル能ハス天皇ノ大權トハ立法行法司法ノ三大權ヲ除キテ別ニ一箇ノ大權アルヤ思フニ大權ハ卽チ立法行法司法ノ三大權ヲ指スモノナルヘク此三大權ノ外ニ別箇ノ大權アルニハアラサルヘシ若シ果シテ三大權ヲ指スモノナリトセハ國家時變ノ場合ニ於テ其大權ノ施行ヲ妨ケストハ如何ナルコトナルヘキヤ國家事變ノ場合ニ於テハ日本臣民タル分限ハ法律ノ定ムル所ニ依ラスシテ內國人ヲ外國人ト爲シ外國人モ內國人ト爲シ又法律ノ定ムル所ノ資格ニ拘ハラス文武官ニ任シ又兵役納稅ノ義務ヲ釋放スル等總テ第十八條以下ノ條規ニ拘ハラサルヲイフヤ思フニ國家事變ノ場合ト雖モ如此

キコトハ是レナカルヘキナリト

余日ク然ラス法文ニ本章ニ掲ケタル條規トアルモ必スシモ逐條皆事變ノ場合ニ於テハ其條規ニ拘ハラストイフノ趣旨ニアラサルノミナラス戰時ニ際シテ兵役ヲ免スルカ如キハ事理ニ於テ決シテアルヘカラサルコトナリ又所謂ル大權ハ三大權ヲ指スニ相違ナシト雖モ專ラ行法權ヲ指スモノナリ法律ノ精神ハ事變ニ際シテハ憲法ノ爲メニ行法權ノ施行ヲ妨ケラレストイフニ在ルノミ例ヘハ法律所定ノ資格ヲ有セサレハ文武官ニ任スルヲ得スト雖モ事變ニ際シテハ之ニ拘ハラス其事變ニ處スヘキ相當ノ人ナレハ之ヲ登用シ又臣民ハ法律所定ノ兵役ニ服スル義務アリト雖モ事變ニ際シテハ其法律ニ拘ハラス男女老幼ヲ別タス全國ノ人衆ヲ擧ケテ皆兵タラシムルノ類ヲイフナリ或ハ第三十一條ニ關シテ戒嚴令保安條例等ヲ引テ其說ヲ爲ス者アレモ這ハ是レ畢竟蛇足ニ外ナラス如此キハ豫メ法律ノ定ムル處ニシテ其法律自體ニ於テ適用セラルヽモノナレハ特ニ第三十一條ヲ以テ之ヲイフヲ要セサルナリ

又第二章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス(憲法第三十二條)軍人タリト雖モ此章ノ權利義務ヲ有セサルニハアラス然リト雖モ軍人ハ之ヲ實地ニ行フヲ得サルモノトス而シテ只其陸海軍ノ法令紀律ニ牴觸セサルモノニ限リテ權利義務ヲ行フコトヲ許スノミ而シテ納稅ノ義務ノ如キハ軍人ト雖モ之ヲ盡サヽルヘカラス兵役ノ義務ハ已ニ其履行中ニ在ルモ

○臣民權利義務

ノナレハ特ニイフヲ要セス此條規ノ精神ハ專ラ臣民ノ權利ニ係ルモノヲイフニ在リ軍人ハ一ニ軍令ニ服從シテ其上官ニ對シテハ是非ヲ論スルヲ許サヽルヲ原則トス是レ亦何レノ國ノ法律ニ於テモ皆然ラサルハナシ然レトモ此條章ハ細ニ論スレハ畢竟重複ニ涉ルモノナリトイフモ可ナルヘシ何トナレハ軍人ハ勿論常人ト雖モ法律ノ範圍內ニ、アラサレハ其權利ヲ行フヲ得サルコトハ其前諸條ノ明示スル所ナレハナリ

終ニ一言スヘキモノアリ自然ノ道理ニ由テ論スレハ身體ノ自由信教ノ自由ノ如キハ天賦ノモノナレハ其自由ヲ原則トシ其制限ヲ變則トセサルヘカラス然ルニ憲法第二章諸條ヲ通覽スルニ其文例一樣ナラスト雖モ大體ヨリ觀レハ法律ハ制限法ヲ原則トシテ天賦ノ自由ヲ變則トセシモノヽ如シ何トナレハ例ヘハ第二十二條ノ如キ日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住移轉ノ自由ヲ有ストアリテ先ツ法律ニ於テ範圍ヲ定メ其範圍內ヲ限リテ自由ヲ許スモノヽ如クナレハナリ然レトモ這ハ單ニ文章上ノ論ニシテ法律ノ精神ハ如此クナルニハアラサルヘシ故ニ第二十二條ハ左ノ如ク解シテ可ナルヘシ日本臣民ハ居住移轉ノ自由ヲ有ス但特ニ法律ノ定ムル場合ハ格別ナリトスト尙ホ細ニ論スレハ其自由ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ有スト雖モ只之ヲ行フニ至テ法律ノ定ムル所ニ依ラサルヘカラサルノミ

第八章　會計

○會計

仲孫蔑曰ク長トシテ國家ニ而務ムルニ財用ヲ者必自ル小人ニ矣。小人ニ之使レ爲ンニ國家ヲ菑害並至ル。雖レ有ニ善者一亦無レ如スルニ之ヲ何一矣。古來諸國君主タル者ノ財用ヲ務メシハ皆小人ニ由ラサルハナシ然レ𪜈小人ヲシテ其智ヲ恣ニスルヲ得セシメタルモノハ法律ノ以テ之ヲ制束スルモノナク其財ヲシテ府庫ノ財タラシムルカ故ナリ且ツ國用ヲ制スルニハ量リ入ヲ以爲レ出ヲ以テ其原則ト爲セリ量入以爲出ハ私家ヲ富マスノ原則ニシテ國用ヲ制スルノ原則ト爲スヘキモノニハアラス今日ノ國用ヲ制スルハ正ニ之ト相反ス卽チ量リ出ス以爲レ入ルヲハ是レ其原則タルヘキモノナリ故ニ先ツ支出スヘキ豫算ヲ定メ而シテ其豫算ニ示スノ財ヲ收入スヘシ且ツ其豫算ハ國民ノ必要ナリト認メタル所ニ依ルモノナラサルヘカラス如此クスレハ國用ニ不足ナクシテ而シテ人民ニ餘財アリ小人モ其奸ヲ施スニ地ナカルヘシ是レ今日憲法ノ趣旨トスル所ニシテ而シテ會計法ノ設アル所以ナリ

新稅ヲ賦課シ稅率ヲ變更シ國債ヲ起シ其他國庫ノ負擔ト爲リ隨テ臣民一般ノ負擔ト爲ルモノハ其何タルヲ論セス一切帝國議會ノ協贊ヲ經テ法律ヲ以テ之ヲ定ム是レ亦未曾有ノ大典ニシテ此憲法ニ至テ初テ府庫ノ財ハ卽チ臣民ノ財ニシテ君ノ爲メニ集ムルニアラサルヲ知ルヘク古聖天子ノ詔勅モ實行セラレ國ノ富ハ則チ君ノ富ニシテ貧富權義共ニ君民ノ向クスル所ト爲レリ(憲法第六十二條)然レ𪜈報償ニ屬スル行政上ノ手數料其他之ト同質ノ收納金ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルノ限ニ在ラス隨テ命令ヲ以テ之ヲ

○會計

定ムルコトヲ得故ニ例ヘハ登記料鑑札料等ノ如キハ政府ノ意見ノミヲ以テ之ヲ定ムヽ是レ臣民全體ノ負擔スルモノニアラサルカ故ナリ

又已ニ國債ノ起シタルモノ幷ニ已ニ豫算ニ定メタルモノモ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要セス豫算ニ定メタルモノハ第六十四條ニ依リ已ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノナレハ再ヒ其協贊ヲ經ルヲ要セサルハ勿論國債モ已ニ之ヲ起シテ從前ノ法律ニ於テ國債ト爲リ內外國人ヲ論セス其既得ノ權利ヲ有スル者アル以上ハ只其事ノ既往ニ屬スルノミナラス他ノ既得權者ヲ害スヘキニアラサレハ亦帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要セサルヤ勿論ナリトス

或曰ク已ニ國債ヲ起シタルモノト豫算ニ定メタルモノトハ幷ニ帝國議會ノ協贊ヲ經サルハ素ヨリ論ヲ俟タサル所ナレ𪜈憲法第六十二條第三項ニハ國債ヲ起シトアレハ只已ニ既往ノ國債ノミニアラス將來起スヘキ國債モ亦協贊ヲ經ルヲ要セサル趣旨ヲ示スモノニシテ特ニ此法文アルハ將來ノ國債ノ爲メナリ既往ノモノハ之ヲ明示スルノ必要ナシト余思フニ此說或ハ一理アルモノヽ如クナレ𪜈法律ハ決シテ然ルニアラス論者ハ法文ヲ看テ國債ヲ起スヲ除ク外ト做スカ故ニ如此キ說ヲ爲スニ至リタルナリ余ハ國債ヲ起シタルモノヲ除ク外ト解スルナリ國債ト豫算トハ幷ニ名詞ニシテ起シト定メトハ共ニ動詞ナリ而シテタルノ助詞ハ此二動詞ヲ結ヒテモノヽ語ニ接續スルモノナリ然ラサレハ過去ノ詞ト未來ノ詞トヲ混シテヲノ詞ヲ以

○會計

テ之ヲ結フモノニシテ文法ノ許サヽル所ナリ且只文法ニ反スルノミナラス大ニ道理ニ反スルモノナリトス何トナレハ國債ハ卽チ國債ニシテ結局臣民ノ負擔ニ歸スヘキモノナレハナリ然レハ國債ヲ起スノ初ニ當テハ臣民カ直接負擔スルモノニアラストシテ之ヲ帝國議會ニ謀ラサルノ道理ナカルヘキナリ

現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限リハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス(憲法第六十三條)此規則ハ第六十二條ト併行スルモノニシテ將來ノモノハ法律ヲ以テ定ムヘシト雖也從前ノモノハ舊法ニ從フテ帝國議會ノ議ニ付セサルコトヲ示スモノナリ其徵收スル租稅ハ將來ニ係ルヲ以テ或ハ將來徵收スルモノニ付テハ帝國議會ノ議ニ付シテ當然ナルモノヽ如クナレトモ如此キハ政府ノ爲メニ大凝ヲ生スヘク而シテ其法律ハ現行ノモノニシテ其權利義務ハ既定ノモノナレハ臣民ニ在テ之ニ遵由セサルノ道理ナキヲ以テ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セサルモノトス

國家ノ歲出歲入ハ每年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘク又豫算ノ欵項ニ超過シ若クハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキモ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス(憲法第六十四條)租稅ハ從前ノ法律ニ從テ一定ノモノヲ徵收スレハ歲入ノ豫算ハ帝國議會ノ協贊ヲ要スルノ道理ナシ又稅率變更新稅賦課ノ時モ第六十二條ニ依テ法律ヲ以テ之ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ經レハ是レ亦豫算ニ付キ特ニ協贊ヲ經ルノ要ナカルヘシ而シテ歲入ハ租稅ノ外ニハ是レナカル

○會計

ヘシ但シ手數料收納金ノ如キハ素ヨリ協贊ヲ經ルモノニアラサレハ歲入タルニ相違ナシト雖ヒ帝國議會ノ初ヨリ關係セサル所ナレハ豫算ニ付キ帝國議會ハ論議スヘキモノニアラサルナリ故ニ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スルモノハ其實僅ニ歲出ノ豫算ノミナリ

此歲出ノ豫算ニ付キ帝國議會ニ於テ其幾部ヲ否決センニ其否決シタル歲出ノ金圓ハ如何スヘキヤ帝國議會ニ於テ之ヲ否決スルモ其金圓ハ已ニ收入シテ現存スルモノナレハ必ス其處分方法ナキヲ得サルナリ余ハ其否決ノ歲出金ハ其次年ノ歲入ニ加ヘテ其次年度ノ歲入額ヲ控除スルヲ穩當ナリトス然レヒ前ニ論シタルカ如ク歲入ハ畫一ニシテ變更ナキモノナリ故ニ帝國議會カ歲出豫算ノ幾部ヲ否決スルモ十分ニ其否決ノ効力ヲ顯ハスコトナシ然レヒ全ク其効力ナキニハアラス其歲出金ハ卽チ歲計ノ剩餘ナルヲ以テ會計法第二十條ニ依リ翌年度ノ歲入ニ加フ而シテ結局府庫ニ餘財アリテ終ニハ必要ノ費用ニ充ツルヲ得ルニ至ルヘキナリ

歲入歲出ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スルカ故ニ政府ハ會計法ニ從ヒ豫算ヲ整頓シテ之ヲ帝國議會ニ提出セサルヘカラス(明治二十二年二月十一日法律第四號ヲ以テ會計法ヲ公布セラル)政府ノ會計年度ハ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニシテ其年度中ノ歲入歲出ニ係ル事務ハ翌年十一月三十日マテニ悉皆完結スルモノトス而シテ租稅其他一切ノ收納ハ之ヲ歲入ト爲シ一切ノ經費ハ之ヲ歲出

○會計

ト爲ス而シテ政府ハ其歳入歳出ニ係ル總豫算ヲ作ラサルヘカラス此總豫算ヲ作ルニハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ就テ尙ホ款項ニ細別ス且ツ總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲メニ左ノ文書ヲ添附ス第一各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入ス第二其年三月三十一日迄ノ會計年度ノ歳入歳出現計書

政府ハ如此ク豫算案ヲ整頓シテ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出ス然ルニ帝國議會ニ於テ豫算案ヲ議定セス例ヘハ豫算案ヲ單ニ不當ナリトシテ之ヲ政府ニ却還スルカ如キ塲合又ハ豫算成立ニ至ラス例ヘハ論議百出シテ會期中ニ議決セサルカ如キ塲合ニ於テハ政府ハ憲法第七十一條ニ依リ其前年度ノ豫算ヲ施行ス如此キハ是レ理勢ニ於テ然ラサルヲ得サル所ナリ

又豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ニ生シタル支出アル塲合ニ於テモ議會カ之ヲ承諾セサル片ハ如何スヘキヤ其結末ノ方法明ナラサルナリ初ニ於テ協贊ヲ經サル所ナルノミナラス其協贊セシ以外ノモノニ係レハ議會ハ之ヲ承諾セサルコトアルヘキハ必然ナリ故ニ此不承諾ノ塲合ニ於テ其已ニ支出シタルモノヽ處分方法ナキヲ得ス議會カ承諾セサルトイフヲ以テ已ニ支出シタルモノヲ取還スルヲ得サルヘク而シテ之ヲ取還セサレハ其不足ハ之ヲ償フニ由ナカルヘク且ツ或ハ其當局者ヲ責罰スルモ許多ノ支出ニ係ル片ハ結局之ヲ償フ能ハスシテ議會ハ到底承諾セサルヲ得サルニ至ルヘキナリ何トナレハ其支出ハ國家ノ負

債タルモノナレハ國民ノ負擔ニ歸セサルヲ得サレハナリ

或ハ曰ク前項ニ於テ議會カ否決シタル歳出ノ分ハ貯藏スルカ故ニ如此キ場合ニ當テハ此貯藏ノ金圓ヲ以テ辨償スヘシト余思フニ實際或ハ如此キコトアリトスルモ是レ實ニ紛爭ヲ來スノ基ナルヘシ

憲法中帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルノ場合數個アリ例ヘハ第八條第二項第七十條第二項ノ場合ノ如キ是レナリ而シテ其條章ニハ皆次ノ會期ニ於テ承諾ヲ求ムトアリ然ルニ獨第六十四條第二項ニハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムトアリ故ニ何レノ會期ニ拘ハラス政府ノ便宜ニ由リ承諾ヲ求メテ可ナルモノヽ如シ然レトモ決シテ何レノ會期ヲ問ハストイフノ趣旨ニハアラサルヘシ他諸條ト同ク必ス次ノ會期ニ於テ承諾ヲ求メサルヘカラサルモノトス獨第六十四條ノ場合ニ限リ政府ノ便宜ニ任スヘキ道理ナカルヘキナリ

議院法第五十三條ニ曰ク豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ両議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ルト如此ク總テ議案ヲ交付スルハ便宜ニ依ルヲ原則トスレトモ豫算ニ限リ必ス先ツ衆議院ニ提出スルヲ規則トス(憲法第六十五條)

或曰ク豫算ニ限リ先ツ衆議院ニ提出スルコトヽセラレタルハ貴族ニ許多ノ財産ヲ有スル者アリト雖モ人民全體ノ財産ニ比スレハ人民ノ財産ハ其多キニ居ル故ニ貴族モ許多ノ租税ヲ納ムヘシト雖モ人民ノ納ムル租税ニ比スレハ亦人民ノ租税ハ其多キニ居ル然リ而シテ衆議院ハ人民ヲ

○會計

代表スル者ニシテ豫算ハ最租稅ト直接ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ多額ノ租稅ヲ納ムル人民ノ代表者タル衆議院ヲシテ先ツ之ヲ議定セシムト此說立法ノ趣旨ニ適スルモノナルヘシ然レトモ前ニ論シタル如ク租稅ハ畫一ノモノナレハ隨テ歲入モ一定ノモノタルヘシ故ニ豫算ニ付テ論議スヘキハ歲出ノ一部ニ過キス已ニ歲出ノ一部トスルトキハ必シモ先ツ衆議院ノ議ニ付シ而シテ後ニ貴族院ノ議ニ付スルノ要ナカルヘキニ似タリ亦便宜何レノ議ヲ先キニスルモ妨ナカルヘキナリ然レトモ會議全體ノ順序ヨリ論スレハ下ニ居ル者先ツ發言シテ順次上ニ居ル者ニ及フハ通常ノ順序ナレハ余ハ窃ニ思フ如何ナル議案ニテモ先ツ衆議院ノ議ニ付シ而シテ後ニ貴族院ノ議ニ付スルヲ當然ナリトス

立法ノ趣旨ハ姑ク措キ豫算ハ必ス先ツ衆議院ノ議ニ付スルヲ規則トス而シテ衆議院ハ議院法第四十條第四十一條ニ依テ豫算案ヲ議定ス然レトモ貴族院ニハ豫算案ニ付キ別ニ議定方法ノ異ナルモノナシ

皇室經費モ國庫ヨリ支出スト雖モ此經費ニ限リ將來增額ヲ要スル場合ノ外ハ帝國議會ノ協贊ヲ要セス現在ノ定額ヲ以テ率ト爲シ每年國庫ヨリ支出ス(憲法第六十六條)皇室經費ハ歲出ノ如何ヲ論スヘキモノニアラス近ク官員ノ俸給議員ノ歲費ニ喩ヘテ論センニ其俸給歲費ノ官員議員ノ掌中ニ入リタル以上ハ俸給歲費ヲ支辨シタル所以ハ之ヲ證明スルニ及ハサルノミナラス且ツ必シモ公事ノミヲ支

○會計

辨スルモノニアラスシテ亦私事ノ用ニモ供スルモノナリ如何ソ其私事ニ供スル所以ノモノヲ擧ケテ一々之ヲ豫算ニ示スヘケン已ニ之ヲ明示スヘキモノニアラストセハ一定ノ俸給歳費ヲ與フルコトノ決定シタル以上ハ又他ニ論議スヘキモノナカルヘキナリ皇室經費モ亦之ニ異ナラス其增額ヲ要スルハ俸給歳費ノ增額ヲ要スルト一般ナリ故ニ增額ヲ要スル場合ニ於テハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルコトトス而シテ如此キハ我憲法ノ示スノミニアラス伊太利和蘭等ノ憲法ニモ亦之ヲ示セリトイフ

歳出ノ豫算ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スト雖モ憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及ヒ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス(憲法第六十七條)此歳出中憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出ハ法文ニ明示スルカ如ク既定ノモノニシテ其未定ノモノニ及ハサルヤ辨ヲ俟タス然レトモ政府ノ義務ニ屬スル歳出ニハ既定ト未定トノ二種アルヘシ而シテ其義務ノ原由ニモ亦二種アリ一ハ法律ノ結果ニ由リ隨時政府ノ義務ニ屬スルモノニシテ一ハ法律上當然ニシテ政府ノ義務ニ屬スルモノナリ以上ノ種別ハ法文ヨリ生スルモノナレトモ一々其種別ニ付テ考究スルヲハ分明ナラサルモノナキニアラス

第一憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出トハ如何或曰ク憲法上ノ大權ハ夫ノ三大權ノ外アルニアラス而シテ行法權ハ則チ此ニ所謂ル大權ナリ故ニ憲法第十條ニ依リ文武

官ノ俸給ヲ定メ又ハ第十二條ニ依リ常備兵額ヲ定メ又ハ第十五條ニ依リ榮典ヲ授與スルノ類ヲイフ兵額ヲ定ノ榮典ヲ授與スルハ直チニ歲出ニ關スルニアラサレヒ大權ヲ行フニ基因シテ生スル費用ナレハ其既定額アルモノハ帝國議會ニ於テ之ヲ變更スルヲ得スト此說當ヲ得タルモノナルヘシ明治二十二年三月五日勅令第二十三號歲入歲出總豫算ヲ視ルニ其經常第一部歲出中第四款ニ恩賞諸祿ノ目アリテ賞勳年金文武官ノ恩給アリ又第二部各廳所管經常歲出ノ所ニ官吏ノ俸給アリ又陸海軍省所管第二款ニ軍事費アリ是等ハ卽チ大權ニ基ツケル既定ノ歲出ナルヘシ然レヒ例ヘハ海軍省所管軍事費ノ目中ニ在ル學生費ノ如キハ大權ニ基ケルモノトハイフヘカラサルニ似タリ

第二法律ノ結果ニ由リ政府ノ義務ニ屬スル歲出トハ如何

或曰ク法律ヲ施行スルニ由リ政府カ負擔スヘキ費用ヲイフ例ヘハ監獄則ヲ施行シテ監獄ノ爲メニ要スル費用又ハ傳染病豫防規則ヲ施行シテ豫防方法ノ爲メニ要スル費用ノ類ノ如シ從前ノ法律ハ格別ナレヒ將來ノ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ成ルモノナレハ已ニ協贊シテ其法律ヲ制定スル以上ハ其施行ヨリ生スル費用モ亦之ヲ協贊シタルモノトイハサルヘカラス故ニ其費用ヲ廢除シ又削減スヘカラサルハ論ヲ俟タス然レヒ其費用ニモ要不要ノ別アリ一概ニ廢除シ削減スヘカラストハイフヲ得ス而シテ已ニ政府ノ義務ニ屬スルモノハ廢除シ削減スヘカラスト雖モ未タ義務ニ屬セサルモノハ之ヲ廢除シ削減スルコトヲ得

ベシ故ニ此點ニ付テハ既定ノ義務タルヤ未定ノ義務タルヤヲ明ニスルヲ緊要ナリトスト是レ亦此說ノ如クナルヘシ然レ𪜈法律ノ結果ニ由テ負擔スル義務ハ如此キモノヽミニ限ラス政府ト雖𪜈時ニ或ハ失錯ナキ能ハス其失錯ニ由テ一人民ニ對シ賠償ノ責ニ任シ又ハ一人民トノ約定ニ關シテ政府カ訴訟ヲ受ケ敗訴シテ政府カ其義務ヲ負フノ類モ亦是レ法律ノ結果ニ由テ政府カ其義務ヲ負擔スルナリ之ヲ要スルニ政府カ能動ノ地位ニ立テ法律ノ施行ヲ爲シ又ハ所動ノ地位ニ在テ法律ノ施行ヲ受ケテ政府カ義務者ト爲ル𪜈ハ其義務ハ卽チ臣民全體ノ負擔スル所ナルヲ以テ其歲出ヲ廢除シ削減スルヲ得サルナリ代理契約ノ論理ハ此ニ之ヲ適用スヘキモノナレハ代理人ノ委任權ヲ行フテ負フ所ノ義務ハ委任者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス或ハ代理人ニ失錯アリト雖モ其代理人タル以上ハ第三者ニ對シテハ委任者其責ヲ辭スルヲ得サルナリ

第三法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出トハ如何曰ク此義務ハ法律上當然政府ノ義務ニ屬スルモノニシテ紙幣ヲ消還シ國債ヲ償却スルノ義務ノ如キナイフ紙幣國債ハ之ヲ發シ之ヲ起スノ法律ヲ以テ政府ニ消還償却ノ義務ヲ負ハシムルモノナリ而シテ既ニ其義務ヲ負フコトヲ協贊シテ之ヲ發シ之ヲ起シタル以上ハ後ニ至テ其歲出ヲ廢除シ又ハ削減シテ政府ヲシテ其盡スヘキノ義務ヲ爲サヽラシムヘキニアラス

以上三種ノ歲出ニ就テ其第一ハ既定ノモノナリト雖モ尙

ホ其事實ニ於テ除減スルヲ得ヘシ文武官ノ俸給ノ如キ是レナリ故ニ此場合ニ於テハ政府ハ除減スルコトニ同意スヘシト雖モ第二第三ノモノハ政府ニ於テ同意スヘキ道理ナク又議會ニ於テモ異議ヲ唱フヘキ道理ナキモノトス何トナレハ既ニ政府ノ義務ニ屬スル以上ハ必ス他ニハ之ニ對シテ既得ノ權利ヲ有スル者アリテ其歳出ヲ除減スレハ既得權者ヲ害セサルヲ得サレハナリ故ニ議會ニ於テモ政府ニ於テモ既定ノ義務ニ屬スル歳出ハ決シテ之ヲ除減スヘキニアラス然ラサレハ人ヲ害シテ己レヲ利スルナリ如何ソ政府タリ帝國議會タルモノ如此キ不義不正ノコトヲ爲スヲ得ン

又憲法第七十六條第二項ニ曰ク歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ第六十七條ノ例ニ依ルト故ニ此義務ニ係ルモノモ帝國議會ハ政府ノ同意ナクシテ之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得サルナリ此義務ハ只既定ノ義務タルノミナラス憲法實施以前ニ係ル義務ナリ故ニ其義務中或ハ憲法ノ條章ニ照シテハ政府ニ於テ負擔スヘカラサルモノアルヘク就中外國人ヲ雇フテ之ニ與フル給料ノ如キハ憲法其他ノ法律ニ於テモ認ムヘキモノニアラス然レトモ時勢ノ已ムヲ得サルヨリ現在ハ何レノ官衙ニモ外國人ヲ雇入レサルハナク又內國人ヲモ外國ニ差遣シ政府ニ關シテ外國人ト約定ヲ締結セシメタルカ如キコトモ多カルヘシ余ヲ以テ之ヲ觀レハ外國人ヲ政府ニ雇フテ之ヲナシテ政事ニ干涉セシムルカ如キハ實ニ國體ヲ辱シムルモノ

ニシテ道理上決シテアルヘカラサルコトナリ然レ𪜈今日迄ハ時政ノ已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ一時便宜ノ爲メナレハ外國人ヲ雇フテ妨ナシ必シモ道理ヲ固執シ國體ニ拘泥スヘキニアラス然レ𪜈國體ハ國體ニシテ道理ハ卽チ道理ナリ爾今ハ國體ヲ重ンシ道理ニ從フテ外國人ヲ雇フカ如キコトハ是レナカルヘク又外國人ヲ雇フノ必要モ是レナカルヘキナリ今日ハ歐米諸國ノ狀勢制度文物萬般ノ事皆我ニ明ニシテ尋常ノ外國人ヨリハ我國人ノ之ヲ知悉スル反テ優ルモノアレハナリ已ニ今日ハ如此キノ時勢ナレ𪜈從前締結シタル約定ニ付テハ政府ハ其義務ヲ盡サヽルヘカラス又內國人ニ關シテモ臨時歲出中政府ノ義務ヲ負擔スルモノ多シ是レ第七十六條第二項ノ明文アル所以ナリ之ヲ要スルニ前來說明セシカ如ク已ニ政府カ義務者ト爲リ他ニ既得權者アル場合ニ於テハ其歲出ニ付キ帝國議會カ異議ヲ唱フヘキ道理ナシトス

歲出入ハ每一年度ヲ限リ其豫算ヲ帝國議會ハ議ニ付スルヲ原則トス數年ニ涉ルノ豫算ヲ會議ニ付スルヲ得ス然レ𪜈特別ノ須要ニ因リ數年ニ涉ラサルヲ得サルモノハ此限ニ在ラス故ニ憲法第六十八條ニ曰ク特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得ト法文ニ繼續費トアリ故ニ此文字ニ依レハ既定ノ費用ニ繼續スヘキモノヽ如シ然レ𪜈豫メ年限ヲ定メトアルニ依テ觀レハ既定ノ費用ニ繼續スルモノニアラサルヲ知ルヘシ法律ノ精神ハ豫メ數年ニ涉リテ支出ヲ要ス

○會計

ル費用ヲイフニ在リ

數年ニ渉リテ支出ヲ要スル繼續費トハ或ハ鐵道ヲ布設シ或ハ港口ヲ築造スル等總テ其事件ノ數年ニ渉ルヘキモノニ係ル費用ヲイフ特別ノ須要トイフモ他アルニアラス即チ數年ニ渉ラサルヲ得サル事情ヲイフナリ故ニ會計法第二十二條ニモ亦日ク數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得ト此條章ニ依リ繼續費ノ性質並ニ其支辨方法ヲ知ルヘキナリ

或曰ク第六十四條第二項ノ場合ニ於テ豫算ノ款項ニ超過シタルトキハ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘカラサルヤ曰ク第六十四條ノ場合ハ豫算ニ超過シテ已ニ支出シタルモノヲイフナリ第六十八條ノ場合ハ未タ支出セサルモノヲイフナリ既往ノ事ハ議會ノ承諾ヲ求メテ之ヲ追認セシメ將來ノ事ハ議會ノ協贊ヲ求メテ豫メ之ヲ贊成セシム憲法ノ文例ニ徴スレハ協贊ト承諾トハ如此キ差別アレトモ共ニ議會ノ是認スルニ至テハ一ナリ其是認ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ求ムルヲ得ヘケレハ第六十四條ノ場合ニ於テモ未タ支出セサルモノハ更ニ繼續費トシテ議會ノ協贊ヲ求ムルニ妨ナク議會モ亦之ヲ是認スルニ於テ妨ナカルヘキナリ

繼續費ハ之ヲ要スルニ豫算歳出ニ外ナラス而シテ一年度ニ限ルモノハ單ニ之ヲ豫算歳出トイヒ其數年ニ渉ルモノ

○會計

ハ特ニ之ヲ繼續費トイフ此一年數年ノ豫算歳出ハ一事件一項ニ付テ定ムルモノナリ此豫算歳出外ニ豫備費アリ憲法第六十九條ニ曰ク避クヘカラサル豫算外ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシト而シテ之ヲ分チテ二項ト爲ス第一豫備金ハ即チ避クヘカラサル金第二豫備金是レナリ第一豫備金ハ即チ豫算外ニ豫算ノ不足ヲ補フモノニシテ第二豫備金ハ即チ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノナリ此二項ノ豫備金ハ常ニ豫算中ニ設ケテ不時ノ須要ニ供ス而シテ豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シテ其承諾ヲ求ムルモノトス(會計法第七條第八條)

憲法第六十四條第二項ニ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ストアリ憲法第六十九條會計法第七條ニ豫備費ヲ設クルノ規定アリ又會計法第八條ニ豫備金ヲ以テ支辨シタルモノニ付キ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルノ規定アリ故ニ二回ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルモノヽ如シ然レトモ二回ノ承諾ヲ求ムルコハアラス豫算ヲ超過シタル支出ハ即チ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メノ豫備費ヲ以テ支辨スヘキモノニシテ又豫算外ニ生シタル支出ハ即チ其必要ノ費用ニ充ツル爲メノ豫備費ヲ以テ支辨スヘキモノナレハ之ヲ支辨シタル後ニ於テ帝國議會ニ提出シテ其承諾ヲ要ムルノミ然レトモ前ニ論セシカ如ク帝國議會ニ於テ之ヲ承諾セサルトキハ結局政府カ歳入ノ有餘ヲ以テ其費用ニ充ツル

ノ外ナキニ至ルヘシ又豫備費ハ不時ノ須要ニ供スルモノナレハ常ニ費消スヘキモノニアラス其費消セサルモノハ會計法第二十條ニ依リ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ是レ亦府庫ニ財ヲ餘スノ一原因タルヘキナリ

公共ノ安寧ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ內外ノ情況ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得而シテ此場合ニ於テモ亦次ノ會期ニ於テ帝國會議ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス(憲法第七十條)此規則ハ憲法第八條ト同一意ノモノニシテ特ニ財政ニ係ルモノナリ內亂外患等事緊急ニシテ帝國議會ヲ召集スル能ハサル場合ニ於テハ行法權ヲ以テ勅令ヲ發シ財政上必要ノ處分ヲ爲ス是レ勢ノ已ムヲ得サルニ出ルナリ而シテ所謂ル財政上ノ處分トハ或ハ國債ヲ起シ或ハ豫算中ノ金圓ヲ流用スルノ類ナルヘシ

會計ニ付キ帝國議會ノ協贊ヲ經若クハ其承諾ヲ得ルカ爲メニハ出納ヲ嚴ニシ收支ヲ明ニセサルヘカラス而シテ出納收支ヲ嚴明ナラシメンニハ其決算ヲ嚴明ナラシメサルヘカラス已ニ其元ヲ明ニセサル如何ソ其末ヲ明ニスルコトヲ得ン是レ會計檢査ノ法ナキ能ハサル所以ナリ憲法第七十二條ニ曰ク國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシト是レ出納收支ヲ嚴明ナラシムル所以ナリ

會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總

決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヒ左ノ事項ノ計算ヲ明記ス(會計法第十六條第十七條)

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後增加歳出額

翌年度繰越額

又此總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附ス

第一　各省決算報告書

第二　國債計算書

第三　特別會計々算書

會計檢査院ノ組織及ヒ職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム而シテ會計ノ檢査ハ昔日ハ大藏省中檢査局ニ於テ之ヲ爲シタルモ其檢査ノ十分ナラサルニ由リ明治十三年第十八號太政官達ヲ以テ之ヲ廢シテ太政官ニ會計檢査院ヲ置カレ又會計法ハ明治十四年第三十三號太政官達ヲ以テ定メラレタルモ共ニ明治十五年一月十六日第五號太政官達ヲ以テ改定セラレタリ而シテ會計法ハ明治二十二年ニ至リ法律第四號ヲ以テ特ニ之ヲ定メラレタルヲ以テ從前ノ會計法中抵觸スルモノハ自ラ消滅セリ然レトモ會計檢査院ニ係ル明

治十五年第五號達ハ尚ホ現存スルモノナリ故ニ今日ニ在テハ會計檢査院ノ組織及ヒ職權ハ此第五號達ノ定ムル所ニ依ラサルヘカラス

第九章　補則

此憲法ハ素ト欽定ノ憲法ニシテ臣民ノ協贊ヲ得テ成リタルモノニアラス故ニ他諸法律ニ於ケルカ如ク其改定ニ至テモ亦臣民ノ協贊ヲ要スヘキモノニアラス故ニ又改定ヲ發議スルノ權利モ亦唯天皇ニ在ルノミ上諭ニ曰ク將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシト而シテ帝國議會ニ其改定案ヲ付シ帝國議會カ議決スルノ方法ハ載セテ憲法第七十三條ニ在リ該條ニ曰ク將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ニ付スヘシ故ニ改正議案ハ勅命ヲ以テ發付セラルヽモノニシテ而シテ其改正ヲ要スルト否トノ事實モ亦勅裁ヲ以テ定メラルヽモノナリ

其改正議案ヲ帝國議會ニ付セラレタルトキハ帝國議會ハ該條第二項ノ方法ニ依テ之ヲ議決ス是レ上諭ニ所謂ル憲法ニ定メタル要件ナリ第二項ニ曰ク此ノ場合ニ於テ両議院ハ各〻其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得スト通常議案ヲ議スルニ

○補則

ハ憲法第四十六條ニ依リ總議員三分ノ一以上出席スレハ議事ヲ開クコトヲ得レ𪜈憲法ノ改正ニ付テハ總員三分ノ二以上ノ出席ヲ要ス又通常ノ議事ハ出席議員過半數ヲ以テ決シ可否同數ナレハ議長ノ決スル所ニ依ルト雖モ憲法改正案ノ議事ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ決スルヲ得ストス故ニ憲法ノ改正案ハ可否共ニ以上ノ要件ヲ具備スルニアラサレハ之ヲ決定スルコトヲ得ス又通常ノ法律ニ付テハ帝國議會ハ修正ノ動議ヲ發スルヲ得ルト雖モ憲法ノ改正案ニ對シテハ修正ノ動議ヲ發スルヲ得ス改正案ノ全部若クハ幾部ヲ可決シ又ハ否決スルニ止マル如此キハ只其議事ヲ鄭重ニスルカ爲メノミナラス元ト憲法ハ欽定ノモノニシテ容易ニ改正セシムヘキモノニアラサルカ故ナリ

又憲法ノ改正ハ天皇幼冲ニシテ攝政ヲ置クノ間ハ之ヲ爲スコトヲ得ストス(憲法第七十五條)攝政ハ天皇ノ名ヲ以テ大權ヲ行フ者ナリト雖𪜈憲法ハ國本ノ依テ立ツ所ニシテ特ニ天皇ノ親裁ヲ要スルモノナリ之ヲ一私人ニ喩ヘンニ攝政ハ恰モ後見人ト一般ノ者ナリ後見人ハ一家ヲ保持スルノ任アルノミニシテ一家ノ基礎ヲ變更スルノ權ナキハ其職分ノ然ラシムル所ナリ況ンヤ攝政タル者一國ノ大本ヲ變更スルコトヲ得ンヤ民法上後見人ノ理論ハ卽チ採テ之ヲ攝政ニ適用スルコトヲ得ヘシ

憲法實施後ハ臣民ハ法律ニ依ラサレハ權利ヲ保護セラレス又義務ヲ負擔スルコトナシ而シテ所謂ル法律ハ帝國議

○補則

會ノ協贊ヲ經テ成ルモノナリ然ルニ從前ノ法律ハ政府ノ意見ノミヲ以テ成リシノミナラス其名稱モ亦一定セスシテ或ハ法律ト稱シ或ハ規則ト稱シ或ハ條例ト稱シ或ハ單ニ布告布達ト稱スル等ノモノアリ之ヲ制定スル方法ニ於テモ亦一定セスシテ元老院ノ議ヲ經ルモノアリ又經サルモノアリテ而シテ臣民カ之ヲ遵守セサルヘカラサルニ至テハ一ナリ之ヲ要スルニ立法權ト行法權トノ區別ナク又其區別アルニ及ヒテモ其判然セサルモノアルヲ以テ今日ヨリ之ヲ觀レハ法律ト稱スルニ足ラス臣民ハ遵守スルノ義務ナシトイフモ不可ナキカ如キモノアリ明治ノ初年ニ在テハ今日ノ省令ニ當ルモノモ尙ホ之ヲ布告トシ凡ソ官廳ノ發スル所ノモノハ悉ク法律ト爲リシナリ然リ而シテ

全國ニ通行スル制度條例勅旨等ハ太政大臣ノ名ヲ以テ發スルコトヽセラレタルハ明治六年五月二十四日史官達以後ノコトニシテ又太政官ノ發令ヲ布告ト稱シ諸省ヨリノ發令ヲ布達ト稱スルコトヽ爲リタルハ明治六年八月二十八日太政官達以後ノコトナリ爾後漸次ニ改定セラルヽ所アリテ終ニ今日憲法ヲ發布セラルヽニ至リタルナリ故ニ其憲法ニ定ムル所ノ如クナラサルモノアルハ當然ノコトナリ然レトモ明ニ憲法ト矛盾スル所アルニアラサレハ廢止スヘキ道理ナシ是レ憲法第七十六條ノ規定アル所以ナリ該條ニ曰ク法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ハラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有スト思フニ臣民ノ權利義務ニ關シテ皆法律ノ範圍

○補則

内ニ於テ權利義務ヲ有スルコトヽシ總テ法律ヲ以テ本元トセラレタルモ其憲法ニ矛盾スルモノナルカ故ナリ然レ𪜈已ニ如此ク法律ノ範圍内ニ於テ之ヲ有スルコトヽセラレタル以上ハ其法律ノ憲法ニ矛盾セサルヤ知ルヘキナリ若シ權利自由不侵等ヲ原則トシテ而シテ制限法ヲ變則トスルニ於テハ其制限法ハ卽チ憲法ニ矛盾シテ遵由ノ効力ヲ失フヘキナリ憲法ハ變則ヲ正則トシテ正則ヲ變則トシタルモノナリ是レ亦情勢ニ於テ然ラサルヲ得サルモノナリ

大日本帝國憲法述義終

附錄議院法

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會

帝國議會ハ貴族院ト衆議院トヲ以テ組織ス而シテ貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及ヒ勅任議員ヲ以テ組織シ衆議院ハ衆議院議員選擧法ノ定ムル所ニ依リ公選議員ヲ以テ組織ス(憲法第三十三條乃至第三十五條)帝國議會ハ卽チ所謂ル國會ニシテ立憲政體ニ於テハ必要關ク ヘカラサルモノナリ若シ帝國議會ナカラシメハ立憲政體トハイフヘカラス何トナレハ法憲ノ立ツヘキ所ナケレハナリ君主ノ意見ヲ以テ法憲トスルモノハ其法憲タル眞ニ所謂ル法憲ナルモノニアラサレハナリ法憲ハ君民ノ共ニ建立シテ共ニ遵守スルモノナラサルヘカラス帝國議會ハ

○帝國議會ノ召集成立及開會

卽チ天皇ト同ク立法ノ權ヲ執テ之ヲ行フモノナリ其協贊ヲ經タル法憲ニシテ始テ君民ノ共ニ建立シテ共ニ遵守スル法憲トイフヘシ是レ立憲政體ニ在テハ帝國議會ノ關ク ヘカラサル所以ナリ故ニ歐洲諸國立憲政體ノ國ニ於テ國會ナキハアラス然レ𪜈其國會ヲ分チテ二種ト爲スモノアリ又之ヲ合シテ一種ト爲スモノアリ而シテ其分合ノ得失ニ付テハ多少ノ論議ナキ能ハス然レ𪜈諸國ノ例ヲ按スルニ二種ト爲スモノ多キニ居ル諸威國希臘國ノ如キハ一種ト爲スモ其他ハ皆二種ト爲セリ其二種ノ國會ニ付キ或ハ其名稱ヲ異ニシ或ハ其議員ノ身分ヲ異ニスルアルモ其二種ノ國會アルニ至テハ一ナリ而シテ二種ノ國會アルハ或ハ人民ニ階級卽チ貴族平民ノ差別アリ或ハ議決ヲシテ丁寧反覆少過ナカラシムルノ趣旨アル等ニ由ルコトナリ我國ニ於テ貴族院ト衆議院ト二種ノ議院ヲ置カレタルモ亦素トヨリ貴族平民ノ差等アルノミナラス尙ホ丁寧反覆議事ヲシテ少過ナカラシメンカ爲メナルヘキナリ佛國ニ於テハ元老院ト立法議院トノ二種アリ元老院ハ我貴族院ニ相當シ立法議院ハ我衆議院ニ相當スルモノナリ而シテ両院ハ其議事ノ權限ヲ異ニス卽チ元老院ハ議案ノ憲法ヲ違反スル所アルヤ否ヤヲ論議スルニ止マリテ他事ニ涉ラス立法議院ハ其事實ノ當否如何ヲ論議スルナリ佛國ニ於テハ如此クナルモ我両議院ハ共ニ事實上ノ問題モ法律上ノ問題モ總テ之ヲ論議スルコトヲ得故ニ其議事タル丁寧ニ似テ而シテ或ハ重複ニ涉リテ無益ナルノ虞ナシトセサル

ナリ

帝國議會ハ貴族院ト衆議院トヲ以テ組織スルモノナルカ故ニ先ツ此貴族院ト衆議院トノ組織ヲイハサルヘカラス貴族院ハ明治二十二年二月十一日勅令第十一號貴族院令ノ定ムル所ニ依テ左ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス(同令第一條)

一　皇族

二　公侯爵

三　伯子男爵各其同爵中ヨリ選擧セラレタル者

四　國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五　各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラレタル者

勳勞アル者ハ必ス勳章ヲ有スヘク學識アル者ハ必ス學位ヲ有スヘシ勳勞アレハ勳章ヲ賜ハラサルノ道理ナク學識アレハ學位ヲ賜ハラサルノ道理ナシ其事實ニ付テ論スレハ大功ハ無功ノ如クニシテ反テ勳章ヲ有セス大識ハ無識ニ似テ曾テ學位ヲ有セサル者アルヘシ然レトモ法律上ヨリ論スレハ勳章ナク學位ナキ者如何ソ之ヲ勳勞者學識者ナリトイフヲ得ン若シ學位勳章ニ依ラサルニ於テハ貴族ノ如キモ貴族ノ名稱ニ由ラスシテ其事實ニ由テ可ナルヘシ法律上ハ或ハ名實違フコトアリト雖モ名ハ卽チ實ノ賓ニシテ空ク立タサルモノト推定セサルヲ得サルナリ

又直接國稅ハ明治二十二年三月二十六日勅令第四十一號

○帝國議會ノ召集成立及開會

ヲ以テ衆議院議員選擧法及ヒ貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノハ地租所得稅トスル旨ヲ定メラレタレハ此二種ニ限ルモノトセサルヘカラス而シテ貴族院令第一條第六條第七條等ニ皆土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅トアルノミナラス衆議院選擧法第六條ニ其語ナキニ徵スレハ所謂ル直接國稅ハ土地工業商業ノ所得稅並ニ地租ニ限ルモノニシテ他種ノ所得稅ハ直接國稅トハイフヘカラス。故ニ他種ノ所得稅ハ多額ヲ納ムルモ貴族院議員タルヲ得サルモノトス又法文ニ多額トアリ其多少ノ程度ハ何ニ由テ定ムヘキヤ未タ詳ナラス然レトモ必ス十五圓以上タルヘキハ論ヲ俟タサルヘシ衆議院ノ議員タルヲ得サル者如何リ貴族院議員タルヲ得ン

皇族ノ男子卽チ皇室典範第三十條ニ示ス親王ニシテ成年ニ達シ卽チ滿二十歲ニ至リタル者ハ當然議員ト爲リ議席ニ列ス(同第二條)又公侯爵ヲ有スル者滿二十五歲ニ達シタルトキモ當然議員ト爲ル(同第三條)皇族公侯ハ選擧ニ依ラス勅任ニ依ラスシテ法律上當然ノ議員タリ而シテ其人員ニ定限ナク又任期ナシ故ニ是レ無定員無任期ノ議員ナリ伯子男ハ滿二十五歲ニ達シ各其同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タリ其人員ハ伯子男各總數ノ五分ノ一ヲ超過スルヲ得ス(同第四條)故ニ伯子男ノ議員ハ勅任ニ依ラス只選擧ノミニ依テ議員タリ然レトモ其人員任期ハ並ニ定限アリ(尙ホ其選擧ニ係ル規則ハ後日勅令ヲ以テ定メラルヘシ)但シ七箇年ノ任期ハ何レノ日ヨリ起算スヘ

○帝國議會ノ召集成立及開會

キヤ未タ詳ナラスト雖モ開院ノ日ヨリ起算シテ當然ナルヘク又年ヲ以テ計算スルモノハ曆ニ隨フヿナルヘキナリ」

勳勞アリ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タリ(同第五條)勳勞學識アル議員ハ選擧ニ依ラスシテ只勅任ニ依ル而シテ任期ナクシテ終身議員タリ但シ人員ニハ定限アリ(同第七條)

各府縣ニ於テ滿三十歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タリ此多額納稅ノ議員ハ選擧ト勅任トニ依テ議員ト爲リ任期ハ七箇年ニシテ又人員ニモ定限アリ(同第六條第七條)且ツ多額ノ納稅者十五人中ヨリ一人ヲ採ル此十五人ハ其府縣ニ於テ最多額ヲ納稅スル第一等ノ者ヨリ第十五等ニ至ルノ者ヲイフナルヘク又多額ハ十五圓以上ノコトナルヘシ假令ヒ其府縣ニ在テハ最多額ノ納稅者タルモ十五圓未滿ノモノニシテハ多額ト稱スルヲ得サルヘシ

尙ホ其選擧ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ定メラルヘシ

勳勞者學識者多額納稅者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルヲ得スト(同第七條)是レ三議員ノ總數ハ有爵議員ノ總數ニ超過スヘカラサルヲイヒシナルヘシ故ニ大體ニ於テハ三議員ノ人員ニ定限アリト雖モ三議員各部ノ人員ニハ定限ナシ又有爵議員トハ公侯伯子男ノ五爵議員ヲイフ皇族ハ有爵議員ニアラス

貴族院議員ハ多額納稅者ヲ除クノ外ハ總テ納稅ノ有無多

寡ニ拘ハラス故ニ皇族公侯伯子男並ニ勲勞者學識者ハ租稅ヲ納ルコトナシト雖モ尚ホ其身分ノミニ依テ貴族議員タルコトヲ得然レトモ已ニ衆議院ノ議員タル者ハ貴族院ノ議員タルヲ得ス(憲法第三十六條)

以上ハ貴族院ヲ組織スル所以ノ梗概ナリ衆議院ハ明治二十二年二月十一日法律第三號衆議院議員選擧法ノ定ムル所ニ依テ組織スルモノニシテ此選擧法ハ素ヨリ衆議院ノ爲メニ設ケタルモノナレトモ其條章中貴族院ニモ亦通用スヘキモノナキニアラス這ハ其條章ノ所ニ於テ論スヘシ

衆議院ハ選擧法ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス故ニ先ツ公選スル所以ヲ明ニセサルヘカラス

第一　選擧區

選擧區並ニ各選擧區ニ於テ選擧スヘキ定員ハ選擧法ノ附錄ニ示ス所ニ從フ(其附錄ハ後ニ之ヲ掲ク)此附錄ニ從ヒ各選擧區ニ於テ一定ノ議員ヲ選擧スヘシ而シテ府縣知事ハ其府縣選擧區ノ選擧ヲ監督シ一選擧區ノ選擧ハ郡長又ハ市長其選擧長ト爲リ之ヲ管理ス一選擧區ニシテ數郡市ニ渉ルトキハ府縣知事ハ其郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選擧長タラシム又一市ノ域内ニ於テ數選擧區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其選擧長タラシム府縣知事カ選擧長ヲ選定スルハ一ニ其所見ニ依リ適宜ノ人ニ命スルコトヲ得(選擧法第一條乃至第四條)

第二　選擧人ノ資格

選擧人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス(同第六條)

第一　日本臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十五歲以上ノ者日本臣民ノ分限ハ前ニ論セシカ如ク別ニ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者選擧人名簿ハ議院法第十八條ニ依リ毎年四月一日ヲ期トシテ合格者ヲ調査シ同月二十日マテニ調製スルモノナリ法文ニ所謂ル調製ノ期日トハ四月二十日ヲイフ故ニ四月二十日ヨリ起算シテ既往ニ遡リ曆ニ從テ滿一年以上タルヲ要ス故ニ明治二十二年四月二十日ヨリ本籍ヲ定メ住居シタル者ニアラサレハ明治二十三年ノ爲メニ選擧人タルヲ得ス此一年ノ計算方法ハ納稅ニ付テモ亦同シ而シテ此第二ノ條件ニハ三個ノ細目アリ之ヲ具備スルヲ要ス第一滿一年以上タル事第二本籍ヲ定メテ現在住居スル事第三四月二十日以後仍ホ繼續シテ住居スル事是レナリ

第三　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣內ニ於テ直接國稅卽チ地租所得稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル此條件ニモ亦三個ノ細目アリ第一地租ニ付テハ滿一年以上所得稅ニ付テハ滿三年以上タル事第二租稅ノ金額十五圓以上タル

○帝國議會ノ召集成立及開會

事第三四月二十日以後仍ホ繼續シテ納稅スル事
是レナリ

第二第三ノ條件中四月二十日以後繼續シテ七月一日投票ヲ行ヒ終ル迄住居シ納稅スルヲ要ス七月一日前ニ於テ移居シ若クハ納稅セサル者ハ投票スルコトヲ得ス

又第三ノ條件ニ付テハ選擧人名簿調製ノ初年ニ限リ一變則アリ選擧法第百十條ニ云ク選擧人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシト故ニ三年ニ滿タサルモ尙ホ滿チタルモノトス

家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其納稅資格ニ算入ス(選擧法第七條)例ヘハ甲者ハ乙者ノ家督ヲ繼承シ若干ノ土地ヲ相續シ其地租ハ十圓ナランニ乙者自己所有ノ土地ニ付キ地租五圓ヲ納メ來リシトキハ乙者ハ甲者ノ地租十圓ト自己ノ地租五圓トヲ合算シ地租十五圓ヲ納ル者ナルヲ以テ選擧人タル資格ヲ有スルモノトス又例ヘハ甲者ハ數年前ヨリ地租十五圓ヲ納メ乙者ハ未タ曾テ納稅セサルモ甲者ノ家督ヲ相續シテ地租十五圓ヲ納ムルノ土地ヲ所有スルトキハ亦選擧人タル資格ヲ有スルモノトス法文ニハ算入ストアリ故ニ其字義ニ付テ論スレハ甲者ノ納稅ト乙者ノ納稅トノ二者アルニアラサレハ選擧人タル資格ヲ得ル能ハサルモノヽ如シ然レトモ相續ニ由テ資格ヲ得ルコトナレハ先人ノ資格全部ヲ相

續スルモ妨ナカルヘシ必スシモ彼ノ一分ノ資格ト我ノ一分ノ資格トヲ合シテ全資格ヲ得ルニハアラサルヘキナリ

第三　被選人ノ資格

被選人タルニハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス(同第八條)

第一　日本臣民ノ男子ニシテ年齢滿三十歲以上ノ者

第二　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其選擧府縣內ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

被選人タル者ハ以上二個ノ條件ヲ要スルノミニシテ選擧人ノ如ク其府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スルノ條件ヲ要スルノ法文ナシ故ニ甲縣ノ選擧人ニシテ乙縣ノ人ヲ選擧スルヲ得ヘシ是レ被選人ニハ本籍ヲ定ムルト住居スルトノ條件ナキ所以ナリ只其府縣內ニ在テ相當ノ租稅ヲ納ムル者ナレハ其府縣ノ被選人タルヲ得

第四　被選人タル資格ノ抵觸

第一　宮內官裁判官會計檢査官收稅官及ヒ警察官ハ議員タルヲ得ス其他ノ官吏ハ其職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得(同第九條)

第二　神官及ヒ諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ議員タルヲ得ス或曰ク教師ハ耶蘇教々師ヲ指ス故ニ耶蘇教々師ハ被選人タルヲ得スト余ノ所見ハ之ニ異ナリ耶

○帝國議會ノ召集成立及開會

蘇教ハ未タ國教タルモノニアラス其教師ハ法律上ニ於テハ尋常一様ノ人タルノミ故ニ被選人タルコトヲ得ヘシ或曰ク所謂ル教師ハ昔日ノ教導職ヲ指スモノナルヘシト未タ其何レカ是ナルヲ知ラス(同第十二條)

第三　府縣及ヒ郡ノ官吏ハ其管轄區域内ニ於テ被選人タルヲ得ス(同第十條)

第四　選擧ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其選擧區ニ於テ被選人タルヲ得ス(同第十一條)

第五　貴族院議員及ヒ府縣會議員ニシテ衆議院ノ議員ヲ兼ヌルヲ得ス故ニ貴族院又ハ府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選擧セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ法律上其前職ヲ辭セサルヲ得ス(憲法第三十六條選擧法第十三條)

以上ノ五者ハ被選人タルヲ得スト雖モ選擧人タルハ素ヨリ妨ナキモノトス又貴族院令ニハ此資格抵觸ノ項目ヲ明示セスト雖モ宮内官裁判官等ハ貴族院議員タルヲ得サルヘシ

第五　選擧人被選人ニ通スル無能力及ヒ抵觸無能力タル者左ノ如シ(選擧法第十四條)

一　瘋癲白癡ノ者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其停止中ノ者

四　禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年

ヲ經サル者○赦免ハ特赦又ハ期滿免除ヲイフ大赦ニ由テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ選擧人ト爲リ被選人ト爲ルコトヲ得ヘシ

五　舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若クハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六　賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免三年ヲ經サル者

七　選擧ニ關ル犯罪ニ由リ選擧權及ヒ被選權ノ停止中ノ者卽チ選擧法第百一條ニ由リ三年以上七年以下選擧權被選權ヲ停止セラレテ其限內ニ在ル者

選擧人被選人タル資格ノ抵觸スル者左ノ如シ

一　陸海軍々人ハ現役中選擧人タリ被選人タルコトヲ得ス其休職停職ニ在ル者亦同シ(同第十五條)

二　華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選擧人被選人タルコトヲ得ス(同第十六條)

三　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其裁判確定ニ至ルマテ選擧人被選人タルコトヲ得ス(同第十七條)

此資格抵觸第二ノ如キハ格別ナレトモ其他ノ抵觸幷ニ無能力ハ貴族院議員ニモ亦適用スヘキナリ

第六　選擧人名簿

選擧人名簿ハ町村ニ於テハ町村長ノ調製スル者ニシテ町村長ハ毎年四月一日ヲ期トシ其投票區內ニ於テ選擧資格

ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其一本ヲ選擧長ニ差出スヘシ而シテ人名簿ニハ選擧人ノ姓名官位職業身分住所生年月其納ムル直接國稅ノ總額幷ニ納稅地ヲ記載スヘシ(同第十八條)

市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選擧人名簿ヲ調製ス(同第十九條)

第一　一市又ハ市內ノ一區ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ選擧長其人名簿ヲ調製ス

第二　市內ニ在ル數區ヲ合シテ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其區內ノ人名簿ヲ調製シ選擧長ニ差出サシム

第三　郡市ヲ合シテ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其選擧長ト爲リタルトキハ市長ヲシテ其人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシメ又市長自ラ其選擧長ト爲リタルトキハ市長其市內ノ人名簿ヲ調製ス

直接國稅ハ選擧人ノ資格ヲ定ムル所以ナルカ故ニ選擧人其住居スル投票區域外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ノ證狀ヲ得テ選擧人名簿調製ノ期日マテニ其投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若クハ區長ニ差出スヘシ(同第二十條)

選擧長ハ各町村長又ハ市長若クハ區長ヨリ差出シタル選擧人名簿ヲ合シ一選擧區ヲ以テ一冊ト爲シ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ備置キ其副本ヲ府縣知事ニ送致ス(同第二十一條)

○帝國議會ノ召集成立及開會

選擧長ハ毎年五月五日ヨリ其二十日マテ十五日間一選擧區選擧人名簿ノ寫ヲ其選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ選擧人ノ縱覽ニ供ス選擧資格アル者選擧人名簿ニ於テ人名ノ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及ヒ證憑ヲ具ヘテ縱覽期限內ニ選擧長ニ申立テ其改正ヲ求ムルコトヲ得但シ縱覽期限ヲ經過シタル後其申立ヲ爲スモ其効ナシトス又人名簿ハ選擧人タル者ノ縱覽ニ供スルモノニシテ廣ク公衆ノ縱覽ニ供スルモノニアラサレハ選擧人ノ資格ナキ者ハ脫漏誤載等ニ付キ意見ヲ述フルノ權ナカルヘシ(同第二十二條第二十三條)

選擧長ニ於テ脫漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其理由及ヒ證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ判定ス若シ其申立ヲ正當ナリト判定シタルトキハ直チニ其人名ヲ記載シ其由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併セテ選擧區內ニ告知ス(同第二十四條)

又選擧長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其理由及ヒ證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ判定ス若シ誤載ナリト判定シタルトキハ直チニ之ヲ削除シ其由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併セテ選擧區內ニ告示ス(同第二十五條)

脫漏誤載ノ場合ニ於テ脫漏ナリ誤載ナリト認定スルトキハ其由ヲ町村長等ニ通知シ選擧區內ニ告知スルハ是レ卽チ判定ニシテ他ニ其方式アルニアラサルヘク又通知告示ヲ

爲スニ付テモ別ニ其法式アルニアラサルヘシ故ニ通知シ告示スルノ實アルニ於テハ其方法ハ便宜ニ任シテ可ナルヘシ又法律ニハ申立ヲ正當ナラスト判定シタルトキハ如何スヘキヤ其方法ヲ示サス脫漏誤載ノ申立ハ理由書ヲ以テスルモノナレハ之ヲ正當ナラスト判定シタルトキハ理由書ニ其正當ナラサル旨ヲ記載シテ之ヲ却下スルノ外ナカルヘシ

又法文ニハ誤字脫字等アル場合ヲ示サス然レトモ此場合モ亦前二個ノ場合ニ照準シ處分シテ可ナルヘシ

申立人又ハ被告人ニ於テ選擧長ノ判定ニ服セサルトキハ選擧長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以內ニ選擧長所在ノ地ヲ管轄スル始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得始審裁判所ニ於テ其訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲ爲ス(同第二十六條第二十七條)此訴訟ハ急速ヲ要スル事件トシテ裁判スルノ外ハ總テ尋常訴訟ニ異ナルコトナカルヘシ但シ始審裁判所ノ裁判ニ對シテ控訴スルヲ得ス是レ選擧長ノ判定ハ卽チ始審裁判ニ該當スルモノナリト看做スカ故ナルヘシ然レトモ始審裁判所ノ裁判ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得(同第二十八條)法文ニハ單ニ大審院ニ上告スルコトヲ得トアルノミニシテ上告ノ理由其期限等ヲ示サス故ニ上告ノ理由ハ尋常ノ訴訟ニ於ケルカ如ク法律ノ論題ニ限ルヘク事實ノ當否ハ上告ノ理由ト爲スヘカラサルヘシ然レトモ上告期限ヲ尋常訴訟ト同視シ二個月ト爲スハ穩當ナラサルニ似タリ何トナレハ此訴訟タル

急速ヲ要スルモノナレハナリ且ツ大審院ハ上告期限内トシテ上告ヲ受理スルモ選擧ノ投票ハ七月一日ナルヲ以テ此日マテニ上告ノ判決ヲ得サレハ其結果ノ如何ニ拘ハラス其訴訟ハ畢竟無効ニ属スヘキナリ又法文ニハ大審院カ急速事件トシテ順序ニ拘ハラス審判スヘキコトヲ示サスト雖モ亦急速事件トシテ處分スヘキニ似タリ何トナレハ急速事件トシテ處分スルモ尚ホ恐クハ上告ノ効力ナカルヘシ況ンヤ通常事件トシテ處分スルニ於テハ常ニ其効力ナカルヘケレハナリ

選擧人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ据置クモノトス但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選擧長ニ於テ其言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示ス(同第二十九條)

第七　選擧ノ期日及ヒ投票所

選擧ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布ス(同第三十條)

投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス然レトモ一町村ニ於テ選擧人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併ス此場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及ヒ投票所幷ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定ス(同第三十

一條第三十二條)

町村長ハ其管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遲クトモ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日投票所ニ參會セシムヽ是レ投票ノ確實ナルヲ保スル所以ナリ而シテ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス而シテ其事故ノ正否ハ町村長ノ認定スル所ニ在ルヘシ若シ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルトキハ選擧法第百二條ニ由リ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラルヘシ(同第三十三條)

市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ投票選擧ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ル又一市ノ域内ニ數選擧區アル場合ニ於テハ每選擧區ニ一ノ投票所ヲ設ケ投票選擧ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ル(同第百六條)

市長又ハ區長ハ其管理スル選擧區内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遲クトモ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日選擧管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヽ立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヽ此場合ニ於テ選擧明細書ニハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヽ其他町村ノ選擧ニ付キ法律ノ定ムル所ハ總テ市ノ選擧ニモ比附ノ之ヲ適用スヘキナリ(同第百七條)

島司ヲ置ク地方ニ於テハ選擧長ノ職務ハ島司之ヲ掌リ又町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ル(同第百八條第百九條)

第八　投票

投票ハ其期日ノ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル其時間中ハ何時ニテモ投票スルヲ得レ𪜈其前後ニ於テハ投票スルヲ得ス時間外ノ投票ハ當然無効タルヘシ投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其一ハ町村長之ヲ管守シ其一ハ立會人中ノ一人之ヲ管守ス町村長ハ投票ノ時刻至ル𪜈即チ午前七時投票ヲ初ムルニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ先ツ投票函ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示ス是レ詐欺不正ノ事ナキヲ明ニスル所以ナリ然レ𪜈法文ニハ選擧人ノ面前ニ於テトアルノミニシテ其人員ノ多少ヲイハス故ニ法律上ヨリ論スレハ一名ノ選擧人ノ面前ニ於テスルモ妨ナカルヘシ選擧人ハ選擧ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票ス且ツ代人ヲシテ投票ヲ爲サシムルヲ得ストス(同第三十四條乃至第三十七條)

投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用ヒ選擧ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選擧人ニ交付ス選擧人ハ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印ス若シ選擧人文字ヲ書スル能ハサル𪜈ハ其由ヲ申立ツヘシ此場合ニ於テハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞カセ捺印投票セシメ其由ヲ投票明細書ニ記載ス又二人以上ノ議員ヲ選擧スヘキ選擧區ニ於テハ連名投票ヲ用フ(同第三十八條乃至第四十條)

選擧人名簿ニ記載セラレタル者ニアラサレハ投票スルヲ許サヽルハ勿論ナリト雖モ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ

裁判言渡書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其由ヲ投票明細書ニ記載ス(同第四十一條)

投票終ルノ時期即チ午後六時ニ至ルトキハ町村長ハ時期ノ滿チタル旨ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖ス投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス(同第四十二條)或日ク選擧法第三十四條ニ午後六時ニ終ルトアリ六時ハ其全時間即チ六十分間ヲ包含ス故ニ未タ七時ニ達セサル間ハ尚ホ是レ六時中ナレハ投票ヲ爲スコトヲ得午前七時ヨリ午後七時ニ至ルマテ十二時間ヲ投票時間トスト此說一理アルニ似ル然レトモ法律ハ五時ノ盡キテ六時ニ至レハ即チ投票ヲ終ルノ趣旨ナルヘシ故ニ余ハ投票時間ヲ十一時間ト爲スナリ

町村長ハ投票明細書ヲ作リ投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名ス又町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及ヒ投票明細書ヲ併セテ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若シハ區役所ニ送致ス若シ一選擧區內ニアル島嶼ニシテ投票ノ翌日內ニ投票函ヲ送致スル能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日即チ六月十五日ヨリ選擧ノ期日七月一日マテノ間ニ於テ適宜ニ其投票ノ期日ヲ定メ選擧會ノ期日マテニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得(同第四十三條乃至第四十五條)

第九　選擧會

投票ヲ點檢シ其總數ヲ計算スルカ爲メニ選擧會ヲ開設ス選擧會ハ選擧長ニ於テ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ

中ヨリ抽籤ヲ以テ選擧委員三名以上七名以下ヲ定メ其委員ヲ以テ之ヲ組織シ而シテ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ之ヲ開ク(同第四十六條第四十七條)

選擧長ハ投票函送達ノ翌日選擧會ニ於テ選擧委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算ス若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其由ヲ選擧明細書ニ記載ス又總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員ト共ニ投票ヲ點檢ス又各選擧區ノ選擧人ハ其選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得(同第四十八條乃至第五十條)

選擧會ニ於テ投票ヲ點檢シ左ノ投票ニ係ルモノハ之ヲ無効ト爲シ其無効ノ投票ニハ抹線ヲ加ヘ其由ヲ選擧明細書ニ記載シテ一箇年間保存シ此年限ヲ經過シタルトキハ之ヲ燒棄ス(同第五十一條第五十三條)

一 選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ票投但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

三 選擧人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ係リ記載スル所ノ選擧人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用ヒ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其姓名ヲ

認知スルコトヲ得ルモノハ此限ニ在ラス

六　被選人ノ姓名及ヒ選擧人ノ姓名住所ノ外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲メニ其官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用ヒタルモノハ此限ニ在ラス

以上ノモノヽ無効タルヘキハ法文ニ於テ明瞭ナリ然レ𪜈選擧人ノ捺印ナキモノ又ハ選擧人被選人ノ姓名等ニ脫字アルモノヽ如キハ其効力ノ有無分明ナラサルナリ余思フニ此種ノ投票ハ其効力ヲ有スルナルヘシ法文ニ明示シタル無効ノ原由ハ皆投票ノ基礎ニ係ルモノニシテ此ノ法文ナキモ當然ニシテ無効タルヘキモノナリ其基礎ニ於テ誤謬ナキモノハ投票タルニ妨ナク隨テ其効力ヲ有スヘシ捺印ナキモノ若クハ脫字アルモノヽ如キハ其投票ニ瑕瑾アリト雖𪜈尙ホ之ヲ投票トイフヘシ選擧人ノ姓名ナク選擧人ノ姓名ノ知ルヘカラサルモノヽ如キハ投票ト稱スヘカラサルモノニシテ法文ヲ待タスシテ當然無効タルヘキモノナリ瑕瑾ノ投票ト無効ノ投票トハ自ラ差別アリ無効ノ投票ハ成立セサルモノニシテ投票ノ名モ付スヘカラサルモノナリ

一投票ニシテ其選擧スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタル𪜈ハ其定員外ノ人名ニ係ルモノハ無効ニ屬ス故ニ其定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スル然レ𪜈連名投票ニシテ其選擧スヘキ定員ニ足ラサルモノハ無効タルニアラス其現ニ記載アル者ハ投票中ニ計算スヘク又一人

ノ姓名ヲ複記シタル者モ一人トシテ計算スヘシ(同第五十四條)

投票効力ノ有無ハ以上ノ如ク法律ニ明示スル所ナリト雖モ尚ホ其効力有無ニ付キ疑義アルトキハ選擧長ハ選擧委員ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定スヘシ而シテ此決定ニ對シテハ選擧會場ニ於テ異議ヲ申立ルヲ得ストス(同第五十二條)

投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ス然レトモ選擧ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ無効投票ニ付テハ一箇年有効投票ニ付テハ六十日ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其投票ヲ保存シ其裁判ノ確定ノ後ニ至テ之ヲ燒棄ス(同第五十五條第五十六條)

選擧長ハ選擧明細書ヲ作リ選擧點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選擧委員ト共ニ署名シテ之ヲ保存ス(同第五十七條)

第十　當選人

投票總數中ニテ其最多數ヲ得タル者ヲ當選人トス若シ投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ當選人トス若シ又同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム如此クシテ當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直チニ其姓名及ヒ投票ノ數ヲ府縣知事ニ屆出ツ府縣知事其屆出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其姓名ヲ管内ニ告示ス當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其當選ノ諾否ヲ府縣知事ニ屆出ヘシ若シ一人ニシテ數選擧區ノ當選人ト爲リタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選擧區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ屆出ヘシ當選人ハ其府

縣内ニ在ル者ハ十日以内ニ其府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲スヘシ此期限内ニ屆出ヲ爲サヽル者ハ其當選ヲ拒辭シタル者ト看做ス(同第五十八條乃至第六十三條)

當選人ニシテ其當選ヲ拒辭シ又ハ期限内ニ其當選ノ承諾ヲ屆出サルトキハ府縣知事ハ選擧ノ期日ヲ定メ其選擧長ニ命シ再ヒ選擧ヲ行ハシム但シ投票同數ニシテ生年月ノ同シキヲ以テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其當選ヲ拒辭シ又ハ其承諾ヲ屆出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ム(同第六十四條)

各選擧區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及ヒ管内ニ告示シ竝ニ當選人ノ資格ヲ錄シテ内務大臣ニ具申ス(同第六十五條)

第十一　議員ノ任期及ヒ補闕選擧

議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍ホ選擧ニ應スルコトヲ得(同第六十六條)

何等ノ事由ニ拘ハラス議員ニ闕員アルトキハ議長ハ内務大臣ニ補闕選擧ヲ求ムヘシ此場合ニ於テ内務大臣ハ之ヲ補フ爲メ補闕選擧ヲ爲サシム府縣知事ハ内務大臣ヨリ補闕選擧ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選擧區ニ限リ臨時選擧ヲ行ヒ補闕議員ヲ選擧セシム而シテ補闕選擧ノ方法ハ通常選擧ノ方法ニ同シ又補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル故ニ四年ノ任期ハ前議員ノ任期ヨリ起算セサルヘカラス例ヘ

○帝國議會ノ召集成立及開會

ハ前議員一年ノ任期ヲ經テ闕員ニ及ヒタルトキハ補闕議員ハ其一年ト後ノ三年トヲ通算シテ前後四年ノ任期ト爲ス(第八十四條選擧法第六十七條第六十八條)

以上説述シタル所ニ依リ當選シタル議員ヲ以テ衆議院ヲ組織スルニ而シテ全國ノ議員即チ衆議院ヲ組織スル議員ハ其總數三百名ナリ

又此議員選擧ニ關ル一切ノ費用ハ地方税ヲ以テ支辨ス(同第五條)故ニ人民ハ參政ノ權利ヲ得ルト同時ニ其負擔モ亦一層二層ノ重ヲ加フ徒ニ選擧費用ノミナラス議員ノ歳費其他議院ニ要スル費用ノ如キ國庫ヨリ支辨スト雖モ其實ハ皆人民ノ負擔スル所ナリ假令ヒ議員其人ヲ得テ議事其宜ヲ得ルモ尚ホ或ハ人民ニ於テ出入相償ハサルノ憾ナキ能ハス況ンヤ議員其人ヲ得ス議事其宜ヲ得サルニ於テヤ然リ而シテ世間或ハ議員タランコトヲ欲シテ自ラ周旋スル者アリト聞ク余ハ其何ノ意タルヲ解スル能ハス又聞ク特ニ政黨ナル者ヲ組織シテ彼此相攻擊スト公事ハ私心ヲ用ヒ私黨ヲ立テ、論スヘキモノニアラス公平無私ノ心ヲ以テ一ニ國家ノ爲メノミヲ是レ思フモ尚ホ且ツ其宜ヲ得サルモノ多シ然ルヲ況ンヤ私心ヲ懷キ私黨ヲ立ルカ如キニ於テヲヤ

帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス(憲法第四十一條)其召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布ス(第一條)故ニ召集ノ勅諭ニ由ラスシテ集會シタルトキハ其議會ヲ無効ノモノトス又召集ノ勅諭ハ毎年集會ノ期日ヲ定メテ

○帝國議會ノ召集成立及開會

四十日前ニ發布セサルヘカラス然ラサレハ憲法ニ違反スヘキナリ然レトモ四十日ノ日數ハ憲法ノ定ムル所ニアラサレハ或ハ其日數ヨリ少ナキコトアルモ憲法ニ違反シタルモノトハイフヘカラス但シ四十日ノ日數ニ足ラサルコトアルトキハ帝國議會ハ滿四十日ニ相當スル日ヲ以テ集會ノ期日ト爲スコトヲ得ヘシ

議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會ス(第二條)如此ク集會スルモ直チニ開會スルヲ得ス開會ニ先ツテ其準備ヲ爲サヽルヘカラス即チ先ツ各議院ヲ成立セシメサルヘカラス而シテ之ヲ成立セシムルニハ第一着ニ議長副議長ヲ定ムルヲ要ス衆議院ノ議長副議長ハ衆議院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選擧シ其中ニ就テ各一名ヲ勅任ス其任期ハ議員ノ任期ニ依ル而シテ議長副議長ノ勅任セラルヽマテハ書記官長代ハリテ議長ノ職ヲ行フ(第三條第七條第八條)衆議院ニ於テモ議長副議長ハ勅任セラルト雖トモ其本ト議員中ヨリ選擧シタル候補者ノ勅任セラルヽナリ之ニ反シテ貴族院ニ於テハ議長副議長ハ其議員中ヨリ豫メ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヽカ故ニ其候補者ヲ選擧スルコトナシ但シ其任期ハ皇族公侯等法律上當然ニシテ貴族議員タル者ト伯子男其他被選議員タル者トニ於テ異ナル所アリ當然ノ議員ニシテ議長副議長タルトキハ其任期ハ任命ノ時ヨリ七箇年ナリト雖トモ被選議員ノ議長副議長タルトキハ議員ノ任期ヲ以テ其任期ト爲ス故ニ議員ノ任期滿ルトキハ七箇年ニ至ラスシテ議長副議長ノ

職ヲ解タモノトス(貴族院令第十一條)

各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ毎部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選ス(第四條)然レトモ如此ク總議員ヲ數部ニ分割シテ毎部ニ部長ヲ置クハ如何ナル必要ニ依ルコトナルヤ又部長ノ職務ハ如何ナルモノナルヤハ未タ詳ナラス

議員ハ期日ニ會堂ニ集會シ議長副議長ノ候補者ヲ選擧シ又部長ヲ選定シ而シテ議長副議長ノ勅任セラレタルトキハ此ニ議院ハ成立スヘシ然レトモ議長副議長ハ即日勅任セラルヽヤ否ヤ是レ亦未タ詳ナラス

兩議院成立シタルトキハ勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院ノ議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フ而シテ開院式ヲ行フニ當テハ貴族院議長ハ兩院議長ノ職務ヲ行フ(第五條第六條)

帝國議會ノ會期ハ法律上之ヲ三箇月トス然レトモ必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ(憲法第四十二條)必要アルニ於テハ勅命ヲ以テ會期ヲ延長スルコトアリト雖モ短縮スルコトハ憲法ノ許サヽル所ナリ而シテ通常ハ法律上當然會期ヲ三箇月トス此三箇月ノ會期ノ計算ハ法律ニ明文ナシト雖モ月ト稱スルモノハ三十日ニシテ開院ノ即日ヨリ起算シテ合計九十日ヲ以テ會期トスヘキニ似タリ

帝國議會ノ會議ニ通常會ト臨時會トアリ以上說述セシ所ハ通常會ニ係ルモノナリ然レトモ臨時會ニ付キ特別ナルモ

ノヲ除キ其他通常會ノ規則ハ皆之ヲ臨時會ニモ適用スヘキナリ而シテ臨時會ヲ開設スルコトハ憲法第四十三條ノ示ス所ナリ該條ニ曰ク臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ルト會期ニ付テハ特別ノ規定アリテ勅命ニ依ルカ故ニ臨時會ニハ三箇月ノ會期ヲ適用スルヲ得ス其會期ノ長短ハ議定スル事件ノ輕重難易ニ依ルヘキヲ以テ臨時勅命ヲ以テ之ヲ定メラルヽハ當然ノ事ナリ然レトモ前述ノ如ク之ヲ召集スル等ノ事ハ皆通常會ノ規則ニ準スヘキナリ

帝國議會ハ貴族院ト衆議院トヲ以テ組織シ其一ヲ闕クヘカラス其一ヲ闕ケハ帝國議會タルヲ得ス故ニ其開會閉會等皆両院同時ニ之ヲ行ハサルヘカラス(憲法第四十四條)

第二章　議長書記官及ヒ經費

貴族院衆議院共ニ議長副議長各一員ヲ置ク貴族院ノ議長副議長ハ其議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任シ衆議院ノ議長副議長ハ其議員中ニ於テ各三名候補者ヲ選擧セシメ其中ニ就テ四箇年ノ任期ヲ以テ勅任スルモノナリ(第七條第八條)

衆議院ノ議長副議長辭職其他ノ事故ニ由リ闕位ト爲リタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍ホ前任者ノ任期ニ依ル(第九條)貴族院ノ議長副議長ノ闕位ト爲リタルトキハ如何スヘキヤ未タ其法文アルヲ見ス然レトモ衆議院ノ議長副議長闕位ノ時ト異ナルコトナカルヘシ即チ繼任者ノ任期ハ仍ホ前任者ノ任期ニ依ルヘシ故ニ例ヘハ議長三年ニシテ闕位ト爲リ

○議長書記官及經費

タルトキハ後任議長ハ前任議長ノ任期三年ニ繼續シ爾後四年ヲ經テ任期滿限ニ至タルヘキナリ

各議院ノ議長ハ其議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス又議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍ホ其議院ノ事務ヲ指揮ス且ツ議長ハ常任委員會及ヒ特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス(第十條乃至第十二條)

各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理シ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧シ議長ノ職務ヲ行ハシム各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルヽマテハ仍ホ依然其職務ヲ繼續ス(第十三條乃至第十五條)

各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク書記官長ハ勅任ニシテ書記官ハ奏任タリ書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス書記官ハ議事錄及ヒ其他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス又書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス(第十六條第十七條)

兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス然レトモ衆議院選擧ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨シテ國庫ヨリ支出セス又貴族院選擧ニ關ル費用ハ未タ法律ニ之ヲ明示セス思フニ衆議院ノ例ニ準シテ貴族中ヨリ支辨スルナルヘシ(第十八條選擧法第五條)

第三章　議長副議長及ヒ議員歲費

各議院ノ議長ハ歲費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院

ノ被選及ヒ勅任議員並ニ衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ仍ホ其外ニ旅費ヲ受ク旅費ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム又議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムル場合ニ於テハ歳費ノ外各議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク所謂ル歳費ハ一歳ノ手當ニシテ又所謂ル手當ハ一時ノ費用ニ外ナラス議員ノ給料ニ限リ特ニ之ヲ歳費若クハ手當ト稱スルハ何ノ爲メナルヤ解スヘカラス他諸官員モ議員モ同ク公務ニ從事スルニ至テハ一ナリ諸官員ニハ年俸若クハ月俸トイヘハ議員ニモ亦年俸月俸トイフテ可ナルヘシ佛國ノ如キモ元老議員立法議員ニハ俸給トイハスシテ贈與又ハ賠償トイヒ元老議員ハ一年ノ贈與金三萬フランニシテ立法議員ハ一年ニ一萬二千五百フランノ賠償ヲ受ケ又臨時會ニ付テハ一月ニ二千五百フラン(一フランハ大凡二十錢ニ當ル)ノ賠償ヲ受ク如此ク賠償ノ名義ヲ用ヒシハ官員ハ職務ヲ兼ヌルモ俸給ヲ兼受スルヲ得サルヲ原則トスレトモ議員ノ俸給ハ俸給ノ名義ニアラサルヲ以テ官員ニシテ議員ヲ兼ヌルトキニ於テ賠償ト俸給ト二種ノ給料ヲ兼受スルヲ得セシメンカ爲メナリ故ニ官員ニハ俸給トイヒ議員ニハ特ニ賠償若クハ贈與トイフナリ我國ニ於テハ如此キ差別ナケレハ特ニ俸給ト歳費トノ名義ヲ分チシハ何ノ爲メナルヤ未タ詳ナラサルナリ議員ハ其受クヘキ歳費ハ之ヲ辭スルコトヲ得ス然レトモ議員ニシテ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス又官吏ニシテ議員タル者モ歳費ヲ受クルコトヲ得ストス召

○議長副議長及議員歳費

集ニ臨セサル議員ノ歳費ヲ受ケサルハ當然ノ事ナリ官吏ニシテ議員タル者ノ歳費ヲ受ケサルモ亦當然ナルカ如シ然レトモ官吏ノ俸給ハ議員ノ歳費ヨリ多キニ限アラス又官吏中ニハ非職ノ者アルヘシ之ヲ要スルニ官吏ノ俸給一年八百圓以下ノモノニ付キ官吏タルノ故ヲ以テ歳費ヲ與ヘサルハ允當ノコトニハアラサルヘキナリ又官吏ニシテ歳費ヲ受クヘカラストセハ臨時會ノ爲メニ一日五圓以下ノ手當ヲ給スルノ理モ亦解スヘカラサルナリ已ニ一歳ノ爲メニ其費用ヲ受ケハ何ソ一日ノ爲メニ特ニ其費用ヲ受クルノ理アランヤ恐クハ歳費ノ語モ亦允當ナラサルヘシ

第四章　委員

各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及ヒ特別委員ノ三類トス全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲シ常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其任ニ在ルモノトス特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付託スルモノニシテ豫算委員協議委員請願委員懲罰委員ノ如キ是レナリ而シテ全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選擧シ常任委員長及ヒ特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス(第二十條第二十一條)

全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及ヒ特別委員會ハ其委員半數以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス又常任委員會及ヒ特別委員會ハ議員

ノ外傍聽ヲ禁ス且ツ議員ノ傍聽ト雖モ委員會ノ決議ヲ以テ之ヲ禁スルコトヲ得然レトモ全院委員會ハ公開シテ傍聽ヲ禁スルコトナシ(第二十二條第二十三條)

各委員長ハ委員會ノ經過及ヒ結果ヲ議院ニ報告ス(第二十四條)

各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得(第二十五條)

第五章　會議

各議院ノ議長ハ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理スルノ任アルヲ以テ議事日程ヲ定メ即チ每日逐事審議スヘキ條項ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告シ議院ハ此日程ニ從テ議事ヲ開ク議長カ此議事日程ヲ定ムルニハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスルヲ原則トス然レトモ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テハ政府ノ同意ヲ得テ緊急ノ議事ヲ先ニスルコトヲ得(第二十六條)

各議院ノ會議ハ公開シ公衆ノ傍聽ヲ許ス然レトモ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得帝國議會ハ社會公衆ヲ代表スルモノナレハ其會議ハ即チ公衆ノ會議ニシテ之ヲ公開スヘキハ當然ナリ然レトモ時ニ或ハ秘密會議ト爲スコトアルハ一時ノ已ムヲ得サルニ出ルナリ故ニ佛蘭西普魯西和蘭白耳義伊太利墺地利等ニ於テモ皆其憲法ニ於テ會議ヲ密行シ傍聽ヲ禁スルコトヲ許ルシタリ內亂外患等ニ關スル場合ニ於テハ實ニ密行セサルヲ得サ

○會議

ルモノアリ加之憲法第五十三條ノ場合ニ於テ裁判所ノ照會ニ對シ逮捕處分ヲ討議スルカ如キトキモ亦或ハ其會議ヲ密行セサルヲ得サルモノアルヘシ此秘密會議ハ議院法第三十七條以下ノ規則ニ從テ之ヲ行フ(憲法第四十八條)

貴族院ト衆議院トヲ問ハス總テ其議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スヲ得ス又其議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル(憲法第四十六條第四十七條)

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決ス但シ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得(第二十七條)法律ヲ議決スルニ三讀會ヲ以テスルハ之ヲ鄭重ニスル所以ニシテ固トヨリ當然ナリト雖モ未タ其順序方法ヲ示ス細則ナケレハ詳悉スヘカラサルモノアリ三讀會アレハ一讀會二讀會アルヘキハ勿論ナリ其一讀會ニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ議事ヲ爲シ又其二讀會ニ於テハ如何ナルヘキヤ未タ之ヲ知ルヘカラス其方法ニシテ宜ヲ得スンハ三讀會ヲ用フルモ其益ナカルヘキナリ

通常ハ三讀會ヲ用フルヲ原則トスレトモ政府ノ要求若クハ議員ノ多數決ニ由リ此順序ヲ省略シテ二讀會若クハ一讀會ニ於テ議決スルモ妨ナシ又議員ノ多數決ニ由ルトキハ必ス省略セサルヲ得スト雖モ政府ノ要求ニハ必シモ從フヲ要セス議院法第二十七條ニハ省略スルコトヲ得トアリテ

○會議

僅ニ此變則ヲ用フルコトヲ許シタルニ止マリ政府ノ要求ニ從フヘキコトヲ命シタルニハアラサルナリ

政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス是レ亦議事ヲ鄭重ナラシムル所以ナリ但シ緊要ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此限ニ在ラス此ニ所謂ル委員ノ審査ヲ經ルトハ如何ナル委員ノ審査ヲ經ルヤ未タ詳ナラス思フニ全院委員ノ審査ヲ經ルヲイフナルヘシ

通常議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナレハ議長ノ決スル所ニ依ルノミナレトモ議案ヲ發議シ修正ヲ發議スルニハ先ツ二十人以上ノ贊成者アルヲ要ス然ラサレハ議題ト爲シ決議ヲ過半數ニ採ルコトヲ得ス而シテ議案ヲ發議スルハ憲法第三十八條ニ所謂ル法律案ヲ提出スルモノニシテ卽チ是レ兩議院カ發議ノ權ヲ有スル所以ナリ修正ノ動議モ亦是レ一部ノ發議ノ權ニ外ナラス全部ノ發議ト一部ノ發議トヲ論セス凡ソ發議ノ權ヲ行フテ議案ヲ發議シ修正ノ動議ヲ發スルニハ二十人以上ノ贊成者アルヲ要ス(第二十九條)

發議ノ權ハ天皇ニ在リ議案ハ常ニ政府ノ提出スル所ナリ故ニ政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ之ヲ撤回スルコトヲ得議案ハ政府一方ノ意思ニ成リテ未タ議院ノ承諾ヲ得タルモノニアラサレハ之ヲ修正シ之ヲ取消スコトヲ得ルハ是レ當然ノ道理ナリ(第三十條)

凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上ス如此ク最後ノ議院ヨリ奏上スルハ議

案ハ政府ノ便宜ニ依リ或ハ衆議院ニ先ニシ或ハ貴族院ニ先ニシ之ヲ付スルノ順序ニ於テ一定セサルカ故ナリ而シテ所謂ル國務大臣ハ總理大臣ナルヘキナリ但シ否決シタル場合ニ於テハ奏上スルト同時ニ先ノ議院ニ其旨ヲ通知ス(第三十一條)

両議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルヽモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ而シテ之ヲ裁可スルト否トハ一ニ天皇ノ特權ニ在リ而シテ次ノ會期マテニ公布セラレサルモノハ即チ是レ裁可セラレサルモノトス(第三十二條)

第六章　停會閉會

政府ハ一時已ムヲ得サルノ事情アルトキハ何時タリトモ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得然レトモ停會ハ十五日ヲ過ルコトナシトス而シテ其停會ハ両院同時ニ之ヲ行フ停會ノ場合ニ於テ再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續ス是レ解散若クハ閉會ト異ナル所以ナリ解散閉會ノ場合ニ於テハ前議事ヲ繼續スルコトヲ得ス(第三十三條憲法第四十四條)

停會ノ場合ニ於テ停會ノ日數ハ之ヲ會議ノ日數即チ三箇月ノ會期ニ算入スルヤ否ヤ法律ニ明示セス思フニ夫ノ期滿免除ノ中止ト中斷トノ理由ハ停會ト解散トノ差別ニ之ヲ適用スルヲ得ヘク停會ハ恰モ中止ノ如ク解散ハ恰モ中斷ノ如クナルヘシ故ニ停會ノ場合ニ於テハ停會前後ノ日數ヲ通算シテ三箇月ト爲スヘシ例ヘハ開會ヨリ一月ニシテ停會セラレ十日ヲ經テ更ニ開會セソニ前ノ開會日數一

○停會閉會

月ヲ通算スルヲ以テ後ノ開會六十日ヲ過グルヲ得サルモノトス之ニ反シテ解散ノ場合ニ於テハ前ノ會議ハ全ク無効ニ属シ其日數ヲ通算セサルヲ以テ更ニ開會スル日ヨリ新ニ三箇月ノ會期ヲ起算スヘキナリ又已ムヲ得サルノ事情アルトキハ衆議院ニ解散ヲ命ス停會ニハ法律ニ明文アリテ何時タリトモ停會ヲ命ス然レトモ解散ハ何レノ時ニ命スルヲ得ヘキヤ其明文ナシ其明文ナシト雖モ思フニ何時タリトモ解散ヲ命スルヲ得ヘキナリ而シテ衆議院ニ解散ヲ命シタルトキハ貴族院ハ當然同時ニ停會ス此場合ニ於テハ貴族院ハ停會タリト雖モ再ヒ開會スルニ當テ前會ノ議事ヲ繼續スルコトナシ何トナレハ両議院ハ同時ニ於テ一事ヲ議定スヘキモノナルニ衆議院ノ議事ハ解散ニ由テ已ニ無効ニ属シタルカ故ナリ(第三十四條)

衆議院ニハ解散ヲ命スルコトアリト雖モ貴族院ニハ解散ヲ命スルコトナシ貴族院ニハ只停會ヲ命スルコトアルノミ如此ク貴族院ト衆議院トニ付キ法律上ノ差別アルハ何ノ故ナルヤ未タ詳ナラス思フニ貴族院ニハ終身議員タル者アリ且ツ貴族院議員ニシテ政府ニ反對スルノ意見ヲ有スルカ如キコトハ是レナカルヘシト思料スルカ故ナルヘシ

衆議員ニ於テ解散ヲ命セラレタルトキハ其前議事ノ無効ニ属スルノミナラス議員ノ資格モ亦無効ニ属ス故ニ衆議院ヲ解散セシメタルトキハ勅令ヲ以テ新ニ議員ヲ選擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集ス新議員ヲ選擧シ新

○停會閉會

召集ヲ爲ス等ハ總テ通常ノ手續ニ依ル(憲法第四十五條)

又必要ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ両院ノ會期ヲ延長スルコトヲ得然レトモ會期ヲ短縮スルコトハ決シテ是レナキモノトス又其延長ノ日數ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法律上畫一ノ定限アルコトナシ而シテ會期ノ延長モ亦両院同時ニ之ヲ行フ

両議院ノ閉會モ亦同時ニ之ヲ行フ閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ并ニ無効ナラシメ後會ニ繼續セシメス但シ政府ノ要求ニ依リ又ハ其同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルトキハ其議案ハ後會ニ繼續シテ議決スルコトヲ得而シテ閉會ハ勅令ニ由リ両議院合會ニテ之ヲ擧行ス此閉會式ハ開院式ノ如ク貴族院ニ於テシ議長ノ職務ハ貴族院議長之ヲ執リテ之ヲ行フコトナルヘシ(第三十五條第三十六條)

第七章　秘密會議

各議院ノ會議ハ公開スルヲ原則トス然レトモ左ノ場合ニ於テハ公開ヲ停メテ秘密會議ヲ開クコトヲ得(第三十七條憲法第四十八條)

一　議長ノ發議ニ由リ又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議長之ヲ可決シタルトキ

二　政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ此場合ニ於テハ政府ノ要求ノミニ由リ直チニ秘密會議ト爲ス

議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ其發議ノミニ由リ議長ハ直チニ傍聽人ヲ退去セシム而シテ

○秘密會議

其發議ニ對シテハ討論ヲ用ヒスシテ可否ノ決ヲ取ル又秘密會議ノ場合ニ於テハ傍聽ヲ禁スルノミナラス其會議ヲ刊行スルコトヲ許サス但シ其刊行ヲ許サヽルモノハ傍聽人ヲ退去セシメタル以後ノ分ノミナルヘシ其前ニ在テ秘密會議ノ發議ハ傍聽ヲ許シタル中ノコトナレハ刊行シテ妨ナカルヘシ(第三十八條第三十九條)

第八章　豫算案ノ議定

豫算案ハ他ノ議案ト異ナリテ必ス先ツ衆議院ノ會議ニ付シ而シテ後ニ貴族院ノ會議ニ付ス且ツ政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其院ニ於テ之ヲ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ遂ケ之ヲ議院ニ報告ス(第四十條)是レ豫算案ニ特別ノ規則ナリ此特別ノ規則ハリト雖モ他ノ普通ノ規則ヲ適用セサルニハアラス故ニ豫算委員ノ審査報告アリト雖モ尚ホ普通ノ規則ニ從ヒ全院委員ノ審査ヲ經テ且ツ三讀會ヲ經ルニアラサレハ議決スルヲ得サルヘキナリ

又両議院共ニ他ノ議案ニ對シテハ二十人以上ノ贊成者アルトキハ修正ノ動議ヲ以テ議題トスルコトヲ得ルト雖モ豫算案ニ對スル修正ノ動議ハ三十人以上ノ贊成者アルニアラサレハ以テ議題ト爲スコトヲ得ス(第四十一條)

第九章　國務大臣及ヒ政府委員

國務大臣及ヒ政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及ヒ何時タリトモ發言スルコトヲ得又議員ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣政府委員ハ何時タリトモ其委

○國務大臣及ヒ政府委員